

四半期報告書

(平成23年度第2四半期)

自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日

三菱商事株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目3番1号

- 1 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して提出したデータに、目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、四半期レビュー報告書並びに確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	7
1 株式等の状況	7
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	10
(4) ライツプランの内容	10
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	10
(6) 大株主の状況	11
(7) 議決権の状況	12
2 役員の状況	13
第4 経理の状況	14
1 四半期連結財務諸表	15
(1) 四半期連結貸借対照表	15
(2) 四半期連結損益計算書	17
(3) 四半期連結包括損益計算書	19
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	20
2 その他	70
第二部 提出会社の保証会社等の情報	71

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 平成23年度第2四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）

【会社名】 三菱商事株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長 小林 健

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号

【電話番号】 (03) 3210-2121（受付案内台）

【事務連絡者氏名】 主計部 予・決算管理チーム 川上 和義

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号

【電話番号】 (03) 3210-2121（受付案内台）

【事務連絡者氏名】 主計部 予・決算管理チーム 川上 和義

【縦覧に供する場所】 中部支社
（名古屋市中村区名駅一丁目1番4号）
関西支社
（大阪市北区梅田二丁目2番22号）
株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）
株式会社大阪証券取引所
（大阪市中央区北浜一丁目8番16号）
株式会社名古屋証券取引所
（名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		平成22年度 第2四半期連結 累計期間	平成23年度 第2四半期連結 累計期間	平成22年度
会計期間		自 平成22年 4月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 9月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日
収益 (第2四半期連結会計期間)	百万円	2,551,819 (1,255,920)	2,699,889 (1,296,550)	5,206,873
売上総利益	〃	610,316	588,698	1,149,902
法人税等及び持分法による 投資損益前利益	〃	317,178	259,331	534,297
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間)	〃	267,958 (127,118)	245,690 (130,684)	463,188
当社株主に帰属する四半期 包括損益又は包括損益	〃	136,902	△35,929	396,472
売上高 (第2四半期連結会計期間)	〃	9,581,123 (4,839,485)	10,009,074 (5,163,663)	19,233,443
株主資本	〃	3,068,129	3,190,335	3,284,387
総資産額	〃	10,878,917	11,295,599	11,347,442
1株当たり当社株主に帰属 する四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間)	円	163.03 (77.34)	149.36 (79.42)	281.80
潜在株式調整後1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	〃	162.62	149.01	281.05
株主資本比率	%	28.2	28.2	28.9
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	209,465	259,091	331,204
投資活動による キャッシュ・フロー	〃	△129,820	△356,489	△262,601
財務活動による キャッシュ・フロー	〃	△58,778	78,067	76,749
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	〃	1,081,579	1,161,211	1,208,742

(注) 1. 当社の連結経営指標等は、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠した用語、様式及び作成方法（以下「米国会計基準」）に基づいて作成しております。

2. 平成22年度において、より適正な期間損益を連結財務諸表に反映させるため、一部の連結子会社は、従来の12月決算から当社の決算月である3月に決算月を変更しております。これに伴い、当社は連結子会社における決算期の変更を反映させるため、平成22年度第2四半期連結累計期間及び平成22年度第2四半期連結会計期間の一部項目につき遡及的に調整しております。

3. 連結経営指標等に記載の売上高については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。なお、売上高は当社及び連結子会社が契約当事者又は代理人等として行った取引額の合計となっております。

4. 株主資本は、非支配持分を除く当社株主に帰属する資本の部の金額を表示しており、株主資本比率は当該金額にて計算しております。

2【事業の内容】

当社グループは、国内外のネットワークを通じて、エネルギー、金属、機械、化学品、生活産業関連の多種多様な商品の売買や製造、資源開発、インフラ関連事業、金融事業を行うほか、新エネルギー・環境分野等における新しいビジネスモデルや新技術の事業化、総合商社の持つ機能を活かした各種サービスの提供など、広範な分野で多角的に事業を展開しております。

当社はこれらの事業を、取扱商品又はサービスの内容に応じて複数の営業グループに区分しており、それぞれの事業は、当社の各事業部門及びその直轄の関係会社（連結子会社 358 社、持分法適用関連会社 205 社）により推進しております。

オペレーティング・セグメントごとの取扱商品又はサービスの内容、及び主要な関係会社名は下記のとおりです。

	取扱い商品又はサービスの内容	主要な連結子会社名	主要な持分法適用関連会社名
新産業金融事業	アセットマネジメント、 パイアウト投資、リース、 不動産（開発・金融）、 物流・保険 他	三菱商事ロジスティクス 三菱商事・ユービーエス・リアルティ MCアビエーション・パートナーズ DIAMOND REALTY INVESTMENTS MC AVIATION FINANCIAL SERVICES (EUROPE)	三菱オートリース・ホールディング 三菱鉱石輸送 三菱UFJリース
エネルギー事業	石油製品、炭素、 原油、LPG、LNG 他	三菱商事石油 PETRO-DIAMOND INC. DIAMOND GAS RESOURCES	JAPAN AUSTRALIA LNG (MIMI) BRUNEI LNG
金属	鉄鋼製品、石炭、 鉄鉱石、 非鉄金属地金・原料、 非鉄金属製品 他	メタルワン ジェコ MITSUBISHI DEVELOPMENT PTY	IRON ORE COMPANY OF CANADA MOZAL
機械	重電機、鉄道、 エレベーター、プラント、 船舶、自動車、 産業機械、宇宙 他	レンタルのニッケン TRI PETCH ISUZU SALES MCE BANK THE COLT CAR COMPANY	千代田化工建設 KRAMA YUDHA TIGA BERLIAN MOTORS
化学品	石油化学製品、 合成繊維原料、肥料、 機能化学品、 合成樹脂原料・製品、 食品・飼料添加物、 医薬・農薬、 電子材料 他	三菱商事プラスチック 興人 三菱商事フードテック エムシー・ファーティコム 三菱商事ケミカル	サウディ石油化学 METANOL DE ORIENTE, METOR AROMATICS MALAYSIA EXPORTADORA DE SAL
生活産業	医療周辺、流通サービス、 リテール関連事業、 食糧、食品、 繊維、資材 他	日本ケアサブライ 三菱食品 日本農産工業 東洋冷蔵 日本ケンタッキー・フライド・チキン 三菱商事建材 PRINCES ALPAC FOREST PRODUCTS	ティーガイア クリエイト・レストランツ・ホールディングス コカ・コーラ セントラル ジャパン ローソン ライフコーポレーション 北越紀州製紙 MITSUBISHI CEMENT
その他	財務、経理、人事、 総務関連、IT、 新エネルギー、海外電力、 環境・水関連事業 他	DIAMOND GENERATING CORPORATION 三菱商事フィナンシャルサービス MITSUBISHI CORPORATION FINANCE アイ・ティ・フロンティア	
現地法人	複数の商品を取扱う総合商社 であり、主要な海外拠点にお いて、当社と同様に多種多様 な活動を行っている。	米国三菱商事会社 欧州三菱商事会社 三菱商事（上海）有限公司	

- (注) 1. 連結子会社数、持分法適用関連会社数には、当社が直接連結経理処理を実施している会社のみ含めており、連結子会社が連結経理処理している関係会社（当第2四半期連結会計期間末現在 486 社）はその数から除外しております。
2. 菱食は、株式交換によるサンエス、明治屋商事及びフードサービスネットワークの完全子会社化に伴い、平成23年7月1日をもって、商号を三菱食品へ変更しております。
3. なお、明治屋商事は平成23年10月1日付けで三菱食品を存続会社として合併しております。
また、サンエス及びフードサービスネットワークは、平成24年4月1日付けでそれぞれ三菱食品を存続会社として合併します。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

特に記載すべき事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績

当第2四半期連結累計期間の経済環境としては、先進国については、緩やかな景気回復が続きましたが、欧州債務問題により金融市場の混乱が生じ、景気の下振れ懸念が高まりました。新興国については、旺盛な内需に牽引され堅調な成長が維持されましたが、インフレ抑制のために金融引き締めを強化する国も見られました。

わが国では、震災により被害を受けた生産供給体制は予想以上に早く回復しましたが、海外経済の下振れ懸念を受けて景気の持ち直しは緩やかなテンポにとどまりました。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、エネルギー事業における油価上昇や取引数量増加などにより、前第2四半期連結累計期間を4,280億円（4.5%）上回る10兆91億円となりました。

売上総利益は、豪州資源関連子会社における販売数量減少や、鉄鋼製品関連子会社における取引数量減少などにより、前第2四半期連結累計期間を216億円（3.5%）下回る5,887億円となりました。

販売費及び一般管理費は、連結子会社における取引拡大に伴う費用増加により、前第2四半期連結累計期間から96億円（2.4%）負担増の4,180億円となりました。

その他の損益項目では、前第2四半期連結累計期間のチリ鉄鉱石関連子会社における株式交換益計上等、一過性の特殊要因の反動により有価証券損益が減少し、減益となりました。

この結果、法人税等及び持分法による投資損益前利益は、前第2四半期連結累計期間を578億円（18.2%）下回る2,593億円となりました。

持分法による投資損益は、油価をはじめとする商品市況の上昇の影響により、前第2四半期連結累計期間を195億円（25.3%）上回る964億円となりました。

以上の結果、当社株主に帰属する四半期純利益は前第2四半期連結累計期間を223億円（8.3%）下回る2,457億円となりました。

オペレーティング・セグメント別の業績を示すと次のとおりです。

a. 新産業金融事業

新産業金融事業グループは、アセットマネジメントや企業のバイアウト投資、リース、不動産（開発・金融）、物流、保険などの分野において、商社型産業金融ビジネスを展開しています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は40億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して4億円の増加となりました。これは、物流関連事業での収益が減少したものの、不動産金融事業の収益の増加、及びリース関連事業での収益の改善により増益となったものです。

b. エネルギー事業

エネルギー事業グループは、石油・ガスの探鉱・開発・生産事業や、LNG液化プロジェクトへの投資、原油・石油製品・炭素製品・LNG・LPGなどの販売取引を行っています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は654億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して96億円の増加となりました。これは、前第2四半期連結累計期間の株式売却益計上の反動があったものの、海外資源関連投資先からの受取配当金の増加や、油価上昇に伴う海外資源関連会社の持分利益が増加したことにより増益となったものです。

c. 金属

金属グループは、薄板、厚板などの鉄鋼製品、石炭、鉄鉱石などの鉄鋼原料、銅、アルミなどの非鉄金

属原料・製品の分野において、販売取引、事業開発、投資などを行っています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は1,097億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して377億円の減少となりました。これは、前第2四半期連結累計期間のチリ鉄鉱石関連子会社における株式交換益計上の反動、及び豪州資源関連子会社（原料炭）における販売数量減などにより減益となったものです。

d. 機械

機械グループは、電力・ガス・石油・化学・製鉄などの大型プラントから、船舶、鉄道、自動車、航空宇宙関連機器、鉱山機械、建設機械、産業機械まで、幅広い分野の機械の販売、事業開発、投資などを行っています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は294億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して22億円の増加となりました。これは、前第2四半期連結累計期間の株式売却益計上の反動や事業撤退に伴う損失などがあったものの、建設機械事業などでの取引増加、及び海外自動車事業における持分利益の増加などにより増益となったものです。

e. 化学品

化学品グループは、原油、天然ガス、鉱物、植物、海洋資源などより生産されるエチレン、メタノール、塩といった工業製品用の原料から、プラスチック、電子材料、食品素材、肥料や医薬品などの製品まで、幅広い化学品の分野において、販売取引、事業開発、投資などを行っています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は179億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して47億円の増加となりました。これは、親会社での取引好調による利益増加、及び石化事業関連会社などでの取引好調による持分利益増加などにより増益となったものです。

f. 生活産業

生活産業グループは、食料、衣料、紙・包装材、セメント・建材、医療・介護など、人々の生活に身近な分野で、原料・素材の調達から、消費市場に至るまでの幅広い領域において、商品・サービスの提供、事業開発、投資などを行っています。

当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益は225億円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して11億円の増加となりました。これは、国内の関連会社における震災関連損失の計上などによる持分法損益の減少や、株式の減損（日清オイリオ）があったものの、食料関連子会社における取引利益の増加などにより増益となったものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より475億円減少し、1兆1,612億円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動により資金は2,591億円増加しました。これは、運転資金負担が増加したものの、資源関連子会社などの営業収入及び資源関連を中心とした投資先からの配当収入が堅調に推移したことによるものです。

なお、前第2四半期連結累計期間と比べ496億円の増加となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動により資金は3,565億円減少しました。これは、主に資源関連子会社における設備投資や航空機の取得、及び関連会社への投資などに伴う支出があったことにより、資金が減少したものです。

なお、前第2四半期連結累計期間と比べ2,267億円の減少となりました。

以上の結果、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計であるフリー・キャッシュ・フローは974億円の資金減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動により資金は781億円増加しました。これは、親会社において配当金の支払いがあったものの、新規投資に向けて資金調達を進めたことにより資金が増加したものです。

なお、前第2四半期連結累計期間と比べ1,368億円の増加となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

a. 新中期経営計画「中期経営計画2012」

当社は昨年7月に、平成22年度から平成24年度の向こう3年間の新たな経営計画として、「中期経営計画2012」を策定致しました。

■経営目標

「中期経営計画2012」では、当社が目指すべきこととして、「継続的企業価値の創出」を掲げました。「継続的企業価値」は、「継続的経済価値」、「継続的社会価値」、「継続的環境価値」を統合した新しい概念です。全てのステークホルダーの要請・期待を踏まえ、事業活動を通じて日本や世界の課題解決に貢献しながら、「継続的企業価値」の創出を目指します。

「継続的企業価値」

「継続的経済価値」：弛まぬ収益モデルとポートフォリオの変革により、健全な利益成長と企業価値の増大を目指す

「継続的社会価値」：企業市民として「社会との共生」という観点から、経済社会の発展に寄与する

「継続的環境価値」：地球を最大のステークホルダーと捉え、地球環境の保全と改善に取り組む

新興国の高い経済成長、先進国の地位の相対的低下、価値観の変化・技術革新・新興国の台頭などが生み出す新たな成長市場の出現、ステークホルダーの広がりなどの外部環境変化や、当社自身の収益構造の変化、収益モデルの変化・多様化、ビジネス現場や実質的な事業推進母体の事業投資先への移転などの内部環境変化を踏まえ、当社は「収益基盤の強化・充実」と「次なる収益の柱の育成」に向けた取り組みを推進していきます。

■定量目標及び指標

収益基盤を強固なものとしつつ、効率性、健全性も考慮しながら利益成長を図っていきます。「中期経営計画2012」では、最終年度となる平成24年度の連結純利益目標を5,000億円とし、中期経営計画期間中のROEは12～15%を見込んでおります。一方、利益目標の達成を目指すに当たり、ネット有利子負債倍率は1.0～1.5倍を目処として、財務の健全性も維持していきます。なお、配当につきましては、従来の基本方針を踏襲し、連結配当性向20～25%の幅の中で行う方針です。

■投資計画

「中期経営計画2012」の期間中は、毎年7,000～8,000億円を目処に、3ヵ年合計で2兆～2兆5,000億円の投資実行を計画しています。

具体的には、全社戦略地域・分野に向けた投資として4,000～5,000億円、金属資源・エネルギー資源分野に向けた投資として1兆～1兆2,000億円、その他分野に向けた投資として6,000～8,000億円を計画しております。

■全社戦略分野・全社戦略地域

新興国の高い経済成長や新しい成長市場への対応として、インフラや地球環境事業を「全社戦略分野」に、また中国・インド・ブラジルを「全社戦略地域」に設定して、優先的に経営資源を配分し、投資を促進することで、将来の収益基盤の構築を目指します。

■多様性を活かす経営・多様性を束ねる経営

「多様性を活かす経営」については、事業の多様化に応じた可視化の仕組みや、事業特性や収益モデルに応じた目標管理制度などを構築・導入することで、多様性を活かし個々の事業を強化しながら、複数の収益の柱を育成していきます。

また、「多様性を束ねる経営」については、「中期経営計画2012」において設定した全社戦略分野・地域などについて、営業グループ・部門をまたがる取組についての方針を討議するために、社長を委員長とする「営業企画委員会」を設置しました。更に、収益モデルの多様化に伴い、当社の拠点、人材、ITにかかわるマネジメントなど、経営基盤の考え方を今後抜本的且つ総合的に見直していきます。

今後の事業環境については、先進国の景気減速に伴い中国・インド・ブラジルなど新興国でも経済成長の鈍化が見込まれるなか、先進国を中心とする財政赤字問題による金融市場の混乱など、世界経済は不

確実性をはらんだ状態が続くと予想されます。

このような環境認識の下、当社では、「中期経営計画2012」を着実に実行し、収益基盤と財務体質をさらに強固なものとして発展させるとともに、多様な事業を通じて日本や世界の課題解決に貢献し、「継続的企業価値」の創出を目指していきます。また、社是として掲げている三綱領の精神の下、社業を通じて経済活動を支え、貢献を図っていく所存です。

b. 個別重要案件

当第2四半期連結累計期間において、重要な状況の変化はありません。

(4) 研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

(5) 流動性と資金の源泉

当社では事業活動を支える資金調達に際して、低コストでかつ安定的に資金が確保できることを目標として取り組んでいます。資金調達にあたっては、CPや社債などの直接金融と銀行借入などの間接金融とを機動的に選択・活用しており、その時々でのマーケット状況での有利手段を追求しています。当社は資本市場でのレピュテーションも高く、加えて間接金融についても、メインバンク以外に外銀・生保・地銀等の金融機関とも幅広く好関係を維持しており、調達コストは競争的なものとなっています。ただし、金融市場は引き続き予断を許さない状況であると考えており、今後とも長期資金を中心とした資金調達を継続すると共に、十分な流動性の確保を行っていく方針です。

当第2四半期連結会計期間末の連結ベースでのグロス有利子負債残高*は、前連結会計年度末比742億円増加の4兆3,318億円となり、このうち85.6%が長期資金となっております。また、現預金の残高は、前連結会計年度末比218億円減少の1兆2,885億円となっております。当第2四半期連結会計期間末の流動比率は連結ベースで146.1%となっております、流動性の点で当社の財務健全性は高いと考えております。

*グロス有利子負債残高には Accounting Standards Codification トピック815「デリバティブ取引及びヘッジ」の適用による影響額を含めておりません。

(注意事項)

当報告書の将来の予測などに関する記述は、当四半期連結会計期間の末日現在において入手された情報に基づき合理的に判断した予想です。従いまして、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されており、実際の結果と大きく異なる場合があります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,500,000,000
計	2,500,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,653,505,751	1,653,505,751	東京、大阪、名古屋 (以上各市場第一部)、 ロンドン各証券取引所	発行済株式は 全て完全議決 権株式かつ、 権利内容に限 定のない株式 です。 単元株式数は 100株です。
計	1,653,505,751	1,653,505,751	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成23年7月15日
新株予約権の数	5,821個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権1個当たりの目的たる株式の数 (付与株式数)	100株(注)
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	582,100株
新株予約権の行使時の払込金額(行使価額)	1円
新株予約権の行使期間	平成23年8月2日から 平成53年8月1日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される 資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる 1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	(注)
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)

(注) 付与株式数の調整及び新株予約権の行使の条件

1. 当社が、当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当を含む)又は株式併合等を行うことにより、株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。
2. 新株予約権者は、平成25年8月2日又は当社取締役、執行役員及び理事のいずれの地位も喪失した日の翌日の何れか早い日から新株予約権を行使できるものとする。
3. 新株予約権者は、当社取締役、執行役員及び理事のいずれの地位も喪失した日の翌日から起算して10年が経過した場合には、以後、新株予約権を行使することができないものとする。
4. その他の条件については、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権割当契約」で定めるところによるものとする。

5. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編成行為」という。）をする場合において、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編成対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編成対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数
残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
 - (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類
再編成対象会社の普通株式とする。
 - (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数
組織再編成行為の条件等を勘案の上、本新株予約権の取り決めに準じて決定する。
 - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編成後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編成後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編成対象会社の株式1株当たり1円とする。
 - (5) 新株予約権を行使することができる期間
本新株予約権の行使期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、本新株予約権の行使期間の満了日までとする。
 - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
本新株予約権の取り決めに準じて決定する。
 - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
 - (8) 新株予約権の取得条項
本新株予約権の取り決めに準じて決定する。
 - (9) その他の新株予約権の行使の条件
本新株予約権の取り決めに準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	1,653,506	—	204,447	—	214,161

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	113,311	6.85
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	84,331	5.10
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	70,410	4.25
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	64,846	3.92
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (三菱重工業株式会社 口・退職給付信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	48,920	2.95
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT- TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	35,123	2.12
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	25,620	1.54
野村信託銀行株式会社 (退職給 付信託・三菱UFJ信託銀行口)	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	22,088	1.33
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イツ クライアント メロン オムニバ ス ユーエス ペンション (常任代理人 株式会社みずほコ ーポレート銀行)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 U. S. A. (東京都中央区月島四丁目16番13号)	18,031	1.09
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (退職給付信託口・三 菱電機株式会社口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	17,768	1.07
計		500,451	30.26

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,502,300 (相互保有株式) 普通株式 572,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,644,871,200	16,448,712	—
単元未満株式	普通株式 560,251	—	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	1,653,505,751	—	—
総株主の議決権	—	16,448,712	—

(注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,100株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数31個が含まれております。

2. 「単元未満株式数」には、次の自己株式及び相互保有株式が含まれております。

自己株式	99株
北越紀州製紙(株)	33株
(株)ヨネイ	46株
松谷化学工業(株)	55株

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
三菱商事(株) (自己株式)	東京都千代田区丸の内 二丁目3番1号	7,502,300	—	7,502,300	0.45
北越紀州製紙(株)	新潟県長岡市西蔵王 三丁目5番1号	474,100	—	474,100	0.02
(株)ヨネイ	東京都中央区銀座 二丁目8番20号	46,900	—	46,900	0.00
(株)ミツハシ	神奈川県横浜市金沢区 幸浦二丁目25番地	30,000	—	30,000	0.00
(株)中村商会	東京都中央区日本橋 本石町三丁目1番7号	14,400	—	14,400	0.00
松谷化学工業(株)	兵庫県伊丹市北伊丹 五丁目3番地	6,600	—	6,600	0.00
計	—	8,074,300	—	8,074,300	0.48

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法

当社の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第95条の規定に基づいて、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠した用語、様式及び作成方法に基づき作成しております。

2. 監査証明

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度末 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)
資産の部			
流動資産			
現金及び現金同等物	3, 7	1, 208, 742	1, 161, 211
定期預金		101, 513	127, 272
短期運用資産	3, 7	42, 641	23, 811
営業債権	5		
受取手形		329, 216	312, 301
売掛金		2, 133, 395	2, 115, 706
短期貸付金等		450, 082	471, 887
関連会社に対する債権		230, 767	219, 386
貸倒引当金	4	△23, 835	△22, 816
棚卸資産		970, 675	915, 892
取引前渡金		164, 937	171, 926
短期繰延税金資産		58, 759	62, 106
その他の流動資産	6, 7	326, 503	359, 371
流動資産合計		<u>5, 993, 395</u>	<u>5, 918, 053</u>
投資及び長期債権			
関連会社に対する投資及び長期債権	7, 12	1, 320, 102	1, 418, 690
その他の投資	3, 5, 7	1, 522, 215	1, 408, 860
長期貸付金及び長期営業債権	5	511, 107	506, 985
貸倒引当金	4	△30, 474	△29, 525
投資及び長期債権合計		<u>3, 322, 950</u>	<u>3, 305, 010</u>
有形固定資産			
有形固定資産	5	2, 978, 616	2, 989, 118
減価償却累計額		△1, 242, 808	△1, 221, 921
有形固定資産合計		<u>1, 735, 808</u>	<u>1, 767, 197</u>
その他の資産	6, 7	295, 289	305, 339
資産合計	12	<u>11, 347, 442</u>	<u>11, 295, 599</u>

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度末 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)
負債及び資本の部			
流動負債			
短期借入金	5	656,873	634,522
一年以内に期限の到来する長期借入債務	5	468,675	508,546
営業債務			
支払手形		165,481	183,536
買掛金及び未払金		1,879,958	1,880,162
関連会社に対する債務		139,141	149,753
取引前受金		162,733	164,642
未払法人税等		64,290	50,657
未払費用		110,591	88,844
その他の流動負債	6, 7	333,555	388,795
流動負債合計		3,981,297	4,049,457
固定負債			
長期借入債務（一年以内の期限到来分を除く）	5	3,188,749	3,261,723
年金及び退職給付債務		48,657	48,315
長期繰延税金負債		215,516	148,767
その他の固定負債	6, 7	312,233	301,870
固定負債合計		3,765,155	3,760,675
負債合計		7,746,452	7,810,132
契約債務及び偶発債務	14		
株主資本			
資本金（普通株式）		203,598	204,447
授権株式総数	：	2,500,000,000 株	
発行済株式総数	：		
前連結会計年度末		1,697,268,271 株	
当第2四半期連結会計期間末		1,653,505,751 株	
資本剰余金		256,501	261,019
利益剰余金		3,135,202	3,187,568
利益準備金		43,670	44,072
その他の利益剰余金		3,091,532	3,143,496
累積その他の包括損益		△159,264	△440,883
未実現有価証券評価益		291,911	203,587
未実現デリバティブ評価損益		24,350	△17,426
確定給付年金調整額		△79,554	△76,353
為替換算調整勘定		△395,971	△550,691
自己株式			
前連結会計年度末		53,194,481 株	
当第2四半期連結会計期間末		7,770,819 株	
株主資本合計		3,284,387	3,190,335
非支配持分		316,603	295,132
資本合計		3,600,990	3,485,467
負債及び資本合計		11,347,442	11,295,599

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
収益	6, 7, 12		
商品販売及び製造業等による収益		2, 245, 825	2, 391, 608
売買取引に係る差損益及び手数料		305, 994	308, 281
収益合計		2, 551, 819	2, 699, 889
(売上高： 前第2四半期連結累計期間：9, 581, 123 百万円 当第2四半期連結累計期間：10, 009, 074 百万円)	1, 12		
商品販売及び製造業等による収益に係る原価	6, 7	△1, 941, 503	△2, 111, 191
売上総利益	12	610, 316	588, 698
その他の収益・費用			
販売費及び一般管理費	9	△408, 371	△418, 012
貸倒引当金繰入額	4	△2, 560	△2, 080
支払利息：下記受取利息差引後 前第2四半期連結累計期間：16, 536 百万円 当第2四半期連結累計期間：18, 230 百万円	6	△3, 987	△1, 328
受取配当金		64, 296	61, 644
有価証券損益	3, 7	41, 198	△6, 700
固定資産損益		△1, 014	△1, 333
その他の損益－純額	6	17, 300	38, 442
その他の収益・費用合計		△293, 138	△329, 367
法人税等及び持分法による投資損益前利益		317, 178	259, 331
法人税等		△107, 807	△95, 302
持分法による投資損益前利益		209, 371	164, 029
持分法による投資損益	12	76, 893	96, 378
非支配持分控除前四半期純利益		286, 264	260, 407
非支配持分に帰属する四半期純利益		△18, 306	△14, 717
当社株主に帰属する四半期純利益		267, 958	245, 690
1株当たり四半期純利益：	11		
当社株主に帰属する四半期純利益			
基本的		163.03 円	149.36 円
潜在株式調整後		162.62 円	149.01 円

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
収益	6, 7, 12		
商品販売及び製造業等による収益		1,101,340	1,135,900
売買取引に係る差損益及び手数料		154,580	160,650
収益合計		1,255,920	1,296,550
(売上高： 前第2四半期連結会計期間：4,839,485百万円 当第2四半期連結会計期間：5,163,663百万円)	1, 12		
商品販売及び製造業等による収益に係る原価	6, 7	△954,435	△1,001,205
売上総利益	12	301,485	295,345
その他の収益・費用			
販売費及び一般管理費	9	△203,873	△209,781
貸倒引当金繰入額	4	△3,398	△1,155
支払利息：下記受取利息差引後 前第2四半期連結会計期間：8,604百万円 当第2四半期連結会計期間：9,487百万円	6	△1,628	△337
受取配当金		37,612	27,976
有価証券損益	3, 7	△3,106	△9,159
固定資産損益		△364	△1,306
その他の損益－純額	6	7,093	13,773
その他の収益・費用合計		△167,664	△179,989
法人税等及び持分法による投資損益前利益		133,821	115,356
法人税等		△43,433	△32,856
持分法による投資損益前利益		90,388	82,500
持分法による投資損益	12	45,758	54,225
非支配持分控除前四半期純利益		136,146	136,725
非支配持分に帰属する四半期純利益		△9,028	△6,041
当社株主に帰属する四半期純利益		127,118	130,684
1株当たり四半期純利益：	11		
当社株主に帰属する四半期純利益			
基本的		77.34円	79.42円
潜在株式調整後		77.14円	79.25円

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

(3) 【四半期連結包括損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
非支配持分控除前四半期純利益		286,264	260,407
その他の包括損益－税効果後			
未実現有価証券評価損益期中変動額	3,10	△44,415	△92,562
未実現デリバティブ評価損益期中変動額	6,10	4,443	△41,836
確定給付年金調整額期中変動額	10	3,295	3,281
為替換算調整勘定期中変動額	10	△102,979	△158,530
その他の包括損益合計		△139,656	△289,647
非支配持分控除前四半期包括損益		146,608	△29,240
非支配持分に帰属する四半期包括損益		△9,706	△6,689
当社株主に帰属する四半期包括損益		136,902	△35,929

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
非支配持分控除前四半期純利益		136,146	136,725
その他の包括損益－税効果後			
未実現有価証券評価損益期中変動額	3,10	39,170	△67,620
未実現デリバティブ評価損益期中変動額	6,10	28,217	△37,000
確定給付年金調整額期中変動額	10	1,668	1,731
為替換算調整勘定期中変動額	10	△3,250	△158,257
その他の包括損益合計		65,805	△261,146
非支配持分控除前四半期包括損益		201,951	△124,421
非支配持分に帰属する四半期包括損益		△5,348	573
当社株主に帰属する四半期包括損益		196,603	△123,848

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期純利益		286,264	260,407
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整			
減価償却費等		69,929	70,736
貸倒引当金繰入額		2,560	2,080
有価証券損益		△41,198	6,700
固定資産損益		1,014	1,333
持分法による投資損益(受取配当金控除後)		△19,016	△62,385
営業活動に係る資産・負債の増減			
短期運用資産		446	△555
売上債権		△22,160	△15,462
棚卸資産		△61,616	△108,761
仕入債務		△55,906	48,609
その他—純額		49,148	56,389
営業活動によるキャッシュ・フロー		209,465	259,091
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産等の取得による支出		△124,433	△179,484
有形固定資産等の売却による収入		5,539	8,342
関連会社等への投資及び貸付による支出		△71,729	△122,744
関連会社等への投資の売却及び貸付金の回収による収入		10,622	58,184
売却可能有価証券及びその他の投資の取得による支出		△146,055	△135,088
売却可能有価証券及びその他の投資の売却及び償還による収入		196,906	99,445
貸付金の実行による支出		△140,157	△137,506
貸付金の回収による収入		138,209	81,293
定期預金の増減—純額		1,278	△28,931
投資活動によるキャッシュ・フロー		△129,820	△356,489
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減—純額		65,961	△21,085
長期借入債務による調達		258,407	359,054
長期借入債務の返済		△335,224	△183,292
親会社による配当金の支払		△34,519	△64,129
子会社による非支配持分に対する配当金の支払		△13,772	△15,823
非支配持分からの子会社持分追加取得等による支払		△22	△181
非支配持分への子会社持分一部売却等による受取		278	2,928
ストックオプション行使による新株発行		118	280
自己株式の増減—純額		△5	315
財務活動によるキャッシュ・フロー		△58,778	78,067
現金及び現金同等物に係る為替相場変動の影響額		△19,832	△28,200
現金及び現金同等物の純増減額		1,035	△47,531
現金及び現金同等物の期首残高		1,080,544	1,208,742
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,081,579	1,161,211

「四半期連結財務諸表に対する注記事項」参照

四半期連結財務諸表の作成方法等について

当四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠した用語、様式及び作成方法（以下「米国会計基準」）に基づき作成しております。米国会計基準は、会計基準コーディフィケーション（Accounting Standards Codification、以下「ASC」）に体系化されております。

当社は昭和45年11月に欧州で転換社債を発行する際に、米国会計基準に基づき連結財務諸表を開示しました。それ以来、広く国内外の投資家、株主、証券アナリスト、報道機関等に米国会計基準に基づく連結財務諸表を継続開示しており、平成元年10月に上場したロンドン証券取引所に対しても同様に米国会計基準に基づく連結財務諸表を開示しております。

また、当社は、米国1933年証券法に基づく様式F-6による登録届出書、及び米国1934年証券取引所法施行規則12g3-2(b)（情報開示の免除申請）に基づき申請を行い、米国預託証券（以下「ADR」）を店頭取引のみ可能な「ADR Level-1」により米国証券取引委員会（Securities and Exchange Commission、以下「SEC」）に登録しております。

米国会計基準に準拠して作成した当四半期連結財務諸表と、本邦の四半期連結財務諸表作成基準及び四半期連結財務諸表規則（以下「本邦会計基準」）に準拠して作成した四半期連結財務諸表との主要な相違内容は次のとおりであり、金額的に重要性のある相違については、米国会計基準による「法人税等及び持分法による投資損益前利益」に対する影響額を開示しております。

（1）四半期連結財務諸表の表示の相違について

a. 営業債権・債務

通常の取引に基づき発生した営業上の債権・債務（ただし、破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権で1年以内に回収されないことが明らかなものを除く）については、本邦会計基準では流動項目として表示しますが、当四半期連結貸借対照表ではその決済期日が貸借対照表日から起算し1年を超えるものを非流動項目として区分表示しております。

b. 鉱業権の表示

鉱業権については、本邦会計基準では無形固定資産として表示しますが、当四半期連結貸借対照表では有形固定資産として表示しております。

c. 収益、売上高及び営業利益

本邦会計基準では「売上高」が表示されますが、当四半期連結損益計算書ではASCサブトピック605-45「収益認識-主たる代理人の報酬」に従った「収益」を表示しており、「売上高」については付記を行っております。

また、本邦会計基準では「営業利益」が表示されますが、当四半期連結損益計算書では「営業利益」を記載しておりません。なお、日本の会計慣行に従った場合に表示される「営業利益」は、前第2四半期連結累計期間では199,385百万円、当第2四半期連結累計期間では168,606百万円となります。

d. 持分法による投資損益

「持分法による投資損益」については、ASCセクション225-10-S99「損益計算書-総論-SECの文献」に基づき、「持分法による投資損益前利益」の後に区分表示しております。

(2) 会計処理基準の相違について

a. 有価証券の評価

有価証券の評価については、ASCサブトピック320-10「投資（負債証券および持分証券）-総論」（以下「ASCサブトピック320-10」）、及び原価法で評価される投資の非貨幣性交換取引に関する会計処理を定めるASCセクション325-20-30「投資（その他）-原価法投資-初期測定」に基づき損益を認識しております。本会計処理による前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の影響額は、それぞれ3,261百万円（損失）及び418百万円（損失）です。

b. 圧縮記帳

有形固定資産の圧縮記帳のうち、直接減額方式で会計処理したのものについては、圧縮記帳がなかったものとして処理しております。

c. デリバティブ

デリバティブについては、ASCトピック815「デリバティブ取引およびヘッジ」（以下「ASCトピック815」）に基づき処理しております。これに伴い、公正価値ヘッジとして指定したデリバティブの公正価値の変動額は、損益計上し、ヘッジ対象の資産、負債及び確定契約の公正価値の変動額による損益と相殺しております。また、キャッシュ・フローヘッジとして指定したデリバティブの公正価値の変動額は、ヘッジ対象取引が実行され損益に計上されるまで「累積その他の包括損益」に繰り延べて計上されております。

d. 年金及び退職給付債務

年金費用については、ASCサブトピック715-30「報酬（退職給付）-確定給付年金」に基づき算定された期間純年金費用（清算の会計処理による未認識年金数理計算上の差異の追加償却を含む）を計上しております。本会計処理による前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の影響額は、それぞれ1,745百万円（利益）及び2,056百万円（利益）です。

e. 企業結合、のれん及びその他の無形固定資産

企業結合における会計処理については、ASCトピック805「企業結合」（以下「ASCトピック805」）に従って、取得法により処理しております。のれんや耐用年数が確定できない無形固定資産及び持分法を適用している関連会社投資に係るのれんについては、ASCトピック350「無形資産（のれんおよびその他）」（以下「ASCトピック350」）に基づき、定期償却を行わず、年1回及び減損の可能性を示す事象が発生した時点で減損の判定を行っております。

四半期連結財務諸表に対する注記事項

1. 事業内容及び四半期連結財務諸表の基本事項

事業内容

三菱商事株式会社（以下、「当社」）及び国内外の連結子会社（以下、まとめて「連結会社」）は、国内外のネットワークを通じて、エネルギー、金属、機械、化学品、生活産業関連の多種多様な商品の売買や製造、資源開発、インフラ関連事業、金融事業を行うほか、新エネルギー・環境分野等における新しいビジネスモデルや新技術の事業化、総合商社の持つ機能を活かした各種サービスの提供など、広範な分野で多角的に事業を展開しております。

四半期連結財務諸表の基本事項

当四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準（以下、「米国会計基準」）に基づき作成しております。連結会社は、それぞれの所在国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき、会計帳簿を保持し財務諸表を報告していることから、当四半期連結財務諸表の作成にあたっては、米国会計基準に準拠するべく、一定の調整又は組替を加えております。これらの調整又は組替事項は、法定帳簿には記帳されておりません。

当四半期連結損益計算書上に「売上高」を表示しておりますが、これは日本の商社が通常自主的に開示する指標であり、連結会社が契約当事者又は代理人として関与した売買契約の取引額の合計を表すものです。連結会社の役割が仲介人としてのみ限定されている取引は、純額で記録され、「売上高」に含まれております。この「売上高」は、米国会計基準における「収益」を意味するものではなく、米国会計基準における「収益」と同等又はその代用となるものではありません。しかしながら、経営者は、「売上高」の情報は、財務諸表利用者にとって有用であると考えていることから、四半期連結損益計算書上に自主的に開示しております。

2. 重要な会計方針の要約

当第2四半期連結財務諸表の作成にあたり採用した重要な会計方針の要約は以下のとおりです。

連結の基本方針並びに子会社、関連会社に対する投資の会計処理

当第2四半期連結財務諸表は、当社及び当社が直接・間接に議決権の過半数を所有する国内外の子会社の各勘定を連結したものです。また、連結会社は、連結会社が主たる受益者となる変動持分事業体についても連結をしております。資産について不可分の持分を所有し、持分に比例して負債を負担する非会社組織の共同事業体について、連結会社は比例連結しております。関連会社（当社が20%以上50%以下の議決権を所有する会社、20%未満であっても重要な影響力を行使しうる会社、コーポレートジョイントベンチャー）に対する投資は持分法を適用しております。持分法を適用している関連会社に対する投資については、価値の下落が一時的なものではないと判断された場合には、減損損失を認識しております。また、議決権の過半数を所有する会社についても、少数株主が通常の事業活動における意思決定に対して重要な参加権を持つ場合においては、持分法を適用しております。連結会社間の重要な内部取引並びに債権債務は、相殺消去しております。

当第2四半期連結財務諸表の作成に当たり、決算日の異なる一部の連結子会社については6月30日以降で当社の決算日である9月30日までに終了する第2四半期会計期間の財務諸表を用いております。これら子会社の決算日と連結決算日との間に、当第2四半期連結財務諸表を修正又は開示すべき重要な事項はありません。

外貨換算

外貨建財務諸表の項目について、海外子会社及び関連会社の資産及び負債は、それぞれの決算日の為替レートにより、収益及び費用は、期中平均レートにより円貨に換算しております。換算により生じる為替換算調整勘定については、「累積その他の包括損益」に計上しております。また、外貨建債権債務は、決算日の為替レートで円貨に換算し、その結果生じる換算損益は四半期連結損益計算書の「その他の損益－純額」に計上しております。

現金同等物

現金同等物とは、3ヶ月以内に満期日が到来する、換金が容易で、かつ価値変動リスクが僅少な流動性の高い投資で、定期預金・コマーシャルペーパー・債券・譲渡性預金を含めております。

市場性のある有価証券及び市場性のない投資

債券及び市場性のある株式は、売買目的有価証券（公正価値で評価し、未実現評価損益は当期の損益として認識）又は売却可能有価証券（公正価値で評価し、未実現評価損益は損益に含めず、税効果後の金額を「累積その他の包括損益」に計上）に分類しております。

非関連会社、すなわち顧客、仕入先及び金融機関に対する投資からなる市場性のない投資は公正価値の入手が困難なため、優先株と同じように取得原価（「原価法投資」）で計上しております。市場性のない投資は、四半期連結貸借対照表上の「その他の投資」に含まれております。

計上の区分は、各々の貸借対照表の日付により再評価しております。売却した市場性のある売却可能有価証券の原価については、移動平均法によって決定しております。

連結会社は、市場性のある有価証券及び市場性のない投資について定期的に減損の有無を検討しております。各々の投資の公正価値が投資の帳簿価額を下回り、その下落が一時的なものではないと判断された場合には、公正価値と帳簿価額の差額について、減損損失を認識しております。また、連結会社は、売却可能有価証券と分類される市場性のある株式の公正価値の下落が一時的か否かの判断について、市場価額が帳簿価額を下回る期間や程度、投資先の財政状態や将来の見通し、予測される市場価額の回復期間にわたり当該証券を保有する意思と能力の有無等を考慮して判断しております。その結果認識する損失は、一時的でないとして想定される下落が確認された期間の四半期連結損益計算書上に計上されております。

売却可能有価証券と分類される債券に関して公正価値が償却原価を下回る場合において、価値の下落が一時的でないとして判定する要素として、(1)企業が債券を売却する予定がある、(2)公正価値が回復する間に企業が債券を売却する可能性が高い、若しくは(3)毀損額が全額回復する見込みがないこと、が挙げられます。企業に債券を売却する意思がある、若しくは売却を余儀なくされる可能性が高い場合、減損額は損益として認識されます。一方、企業に債券を売却する意思がない、若しくは売却を余儀なくされる可能性が低い中、信用毀損により債券の価値が下落した場合は、減損額は信用毀損部分と信用毀損以外の部分に分けられ、それぞれ損益とその他の包括損益として計上されます。

市場性のない投資に関して、公正価値に重要な影響を及ぼす事象の発生や状況の変化が見られ、公正価値が下落したと評価され、その下落が一時的でないとして判断された場合は、当該見積公正価値まで減損を行っております。その結果認識する損失は、一時的でないとして想定される下落が確認された期間の四半期連結損益計算書上に計上されております。

貸倒引当金

貸倒引当金は、主として過去における貸倒実績及び債権の期末残高に対する貸倒見積高に基づき必要額を計上しております。貸付金に関しては、契約条件に従って全額を回収できない可能性がある場合に、引当を行っております。引当額は、将来の見積キャッシュ・フローを実効利率で割り引いた現在価値、又は当該貸付金の市場価額あるいは担保物件の公正価値に基づき、算出しております。

棚卸資産

棚卸資産は、主として商品及び原材料からなり、移動平均法又は個別法に基づく原価、あるいは直近の再調達原価に基づく時価のいずれか低い額により評価しております。

有形固定資産

有形固定資産は、取得原価で表示しております。鉱業権以外の有形固定資産の減価償却は、各資産の見積耐用年数に基づき、主として建物は定額法、機械及び装置は定額法又は定率法、航空機及び船舶は定額法によって算出しております。各資産の見積耐用年数は主として以下のとおりです。

建物	5年から40年
機械及び装置	5年から40年
航空機及び船舶	13年から25年

鉱業権の減価償却は、確認埋蔵量及び推定埋蔵量に基づき、生産高比例法を用いて算出しております。リース資産の改良に伴う費用は、見積耐用年数又は当該資産のリース期間のいずれか短い期間で償却しております。多額の改良費及び追加投資は取得原価で資産計上しておりますが、維持修繕費及び少額の改良に要した支出については発生時に費用処理しております。

リース

連結会社は、直接金融リース、及びオペレーティング・リースによる固定資産の賃貸を行っております。直接金融リースでは、未稼得利益をリース期間にわたり純投資額に対して一定の率で取り崩すことで認識しております。オペレーティング・リースに係る受取リース料は、リース期間にわたり均等に認識しております。

連結会社は、種々の固定資産を賃借しております。キャピタル・リースでは、将来最小支払リース料の現在価値の金額でリース資産とリース負債を認識しております。オペレーティング・リースに係る支払リース料は、リース期間にわたり均等に認識しております。

長期性資産の減損

連結会社は、長期性資産の帳簿価額が回収できない可能性を示す事象や状況の変化が生じた場合に、その減損の有無を検討しております。継続して使用する長期性資産については、帳簿価額と当該資産に係る割引後の将来見積キャッシュ・フロー総額を比較することにより、その回収可能性を検討しており、当該資産の帳簿価額が割引後の将来見積キャッシュ・フローを上回る場合には、その資産の公正価値と帳簿価額の差額を減損損失として認識しております。これらの減損損失額は四半期連結損益計算書の「固定資産損益」に含まれております。また、売却による処分予定の長期性資産は、帳簿価額と、公正価値から処分費用を控除した価額のいずれか低い額により評価しており、減価償却の対象とはしておりません。売却以外の方法による処分予定の長期性資産は、継続して使用する長期性資産として取り扱っております。

企業結合

企業結合は、取得法により会計処理しております。連結会社は、企業結合によって取得した無形固定資産をのれんとその他の無形固定資産に分離して認識しております。

のれん及びその他の無形固定資産

のれん及び耐用年数の確定できない無形固定資産は、償却を行わず少なくとも年1回減損の判定を行っており、また、減損の発生をもたらす可能性が高いと考えられる事象の発生や状況に変化があった場合にも減損の判定を行っております。

連結会社は、のれんについて、最初のステップとしてののれんを含む事業の帳簿価額と関連する事業の公正価値を比較します。公正価値が帳簿価額を下回る場合には、次のステップとして減損金額を算出します。この過程においては、のれんの公正価値をのれんから生み出される収益に基づき算出し、帳簿価額と比較します。その結果算出される差額を減損金額とします。

営業権、借地権、顧客との関係により構成される償却対象とならない無形固定資産は、それらの資産から生み出される収益の現在価値と帳簿価額を比較して減損テストを行います。帳簿価額と現在価値との差額を減損金額とします。

ソフトウェアや製造・販売・サービス提供実施権及び商標権により構成される償却対象となる無形固定資産は、その耐用年数に亘り、定額法にて減価償却を行っております。

石油・ガスの探鉱及び開発

石油・ガスの探鉱及び開発費用は、成功成果法に基づき会計処理しております。利権鉱区取得費用、試掘井及び開発井の掘削・建設費用、及び関連生産設備は資産に計上し、生産高比例法により償却しております。試掘井にかかる費用は、事業性がないことが判明した時点で、地質調査費用等のその他の探鉱費用は、発生時点で費用化しております。確認利権鉱区については、企業環境の変化や経済事象の発生により帳簿価額の回収可能性が損なわれたと推定される場合には、減損の判定を行っております。未確認利権鉱区については、少なくとも会計年度ごとに減損の判定を行っております。

鉱物採掘活動

鉱物の探鉱費用は鉱物の採掘活動の商業採算性が確認されるまで発生時に費用認識しております。商業採算性が確認された後に発生した採掘活動に関する費用については、鉱業権として資産計上し、確認埋蔵量及び推定埋蔵量に基づき生産高比例法により償却しております。

連結会社は、生産期に発生した剥土費用を発生した期間における変動生産費として、当該鉱業資産の棚卸資産の原価に含めております。

従業員退職金及び年金制度

連結会社は、確定給付型年金制度、確定拠出型年金制度及び退職一時金制度を採用しております。確定給付型年金制度及び退職一時金制度に係る年金費用は、年金数理計算に基づき算定しております。

連結会社は、過去勤務債務について、主に関連する給付を受けると見込まれる従業員の平均残存勤務期間にわたり償却しております。

連結会社は、数理計算上の差異の未償却残高について、主に従業員の平均残存勤務期間に亘り償却しております。

資産除去債務

連結会社は、資産除去債務について、公正価値の合理的な見積りが可能である場合には、その発生時に公正価値で負債として認識すると共に、関連する長期性資産を増加させております。また、認識した負債については時間の経過に伴い毎期現在価値まで増額し、資産についてはその経済的耐用年数にわたって減価償却しております。

株式に基づく報酬制度

連結会社は、株式に基づく報酬費用を、権利付与日の公正価値に基づき算定しており、当社取締役（社外役員は除く）、執行役員及び従業員のうち理事の職にある者が対価としてサービスを提供する期間にわたって定額法で費用計上しております。ストックオプションの公正価値は、ブラック・ショールズのオプション価格モデルにて算定しております。

収益の認識基準

連結会社は、契約に関する説得力のある証拠があり、顧客に対する商品の引渡しあるいは役務の提供が完了しており、販売価格が確定又は確定し得る状況にあり、対価の回収が合理的に確保された時に収益認識しております。

連結会社は、金属、機械、化学品、一般消費財等、多岐にわたる製品の製造や、資源開発を行っております。また、連結会社は、様々な商品を取り扱っており、在庫の所有リスクを負担している場合もあれば、単に顧客の商品やその他の製品の売買をサポートし、その対価として手数料を得る場合もあります。

連結会社は、収益の獲得のために、契約当事者あるいは代理人として活動しております。連結会社は、製造業やサービスの提供において、契約の主たる義務者として、客先から発注を受ける前の一般的な在庫リスクを負担して販売を実施した場合は、「商品販売及び製造業等による収益」として対応する原価とともに総額で四半期連結損益計算書上に計上しております。代理人の場合には、純額で「売買取引に係る差損益及び手数料」として四半期連結損益計算書上に計上しております。

連結会社は、製造業やその他の事業において、商品の売買に係る契約当事者となっております。連結会社は、商品在庫の運搬を行い、商品の売値と買値の差額を損益として計上するような様々な商取引において、契約当事者として活動しております。これら商取引における商品の受渡は、客先と合意した受渡条件が満たされた時点で、実施されると考えられます。これは一般的には、客先に商品が届けられ、客先の受け入れが完了するか、商品の所有権が移転するか、あるいは試運転が完了した時点となります。

連結会社はまた、製造業の一部として、長期建設契約を締結しております。連結会社は、長期建設工事から得られる収益について、完成までに要する原価及び当該長期契約の進捗度合を合理的に見積もることができ、かつ、その義務を満了することができる当事者間に法的強制力のある契約がある場合には工事進行基準を、そうでない場合には工事完成基準を使用しております。

連結会社はまた、サービス関連事業及びリース事業からなるその他の事業も行っております。サービス関連事業には、金融、物流、情報通信、技術支援やその他のサービスなど、様々な役務の提供が含まれております。また、連結会社は、オフィスビル、航空機、その他事業用資産などを含む資産のリース事業にも従事しております。サービス関連事業に係る収益は、契約された役務が、その契約に沿って顧客に対して履行された時点で計上しております。リース事業に係る収益認識については、前述のリースに係る会計方針の要約をご参照下さい。

連結会社は、代理人として取引を行っており、代理人として行っている様々な商取引に関連する差損益と手数料収入を計上しております。これらの商取引を通して、連結会社は、顧客の商品その他製品に関する売買をサポートし、その対価として手数料を得ております。売買取引に係る差損益及び手数料は、他の全ての収益認識要件を充足した時点で認識されます。

広告宣伝費

広告宣伝費は発生した時点で費用として計上しております。

研究開発費

研究開発費は発生した時点で費用として計上しております。

法人税等

法人税等は、当第2四半期連結累計期間の属する連結会計年度における、税効果を考慮した見積り税率に基づき算出しております。会計上と税務上の資産負債の差額に係る一時差異及び税務上の繰越欠損金に対する税効果は、将来、当該一時差異が課税所得に影響を与えると見込まれる期間に対応する法定実効税率を用いて算出しております。繰延税金資産のうち、将来の実現が見込めないと判断される部分に対しては評価性引当金を設定しております。

連結会社は、税法上の技術的な解釈に基づき、税務ポジションが、税務当局による調査において50%超の可能性をもって認められる場合に、その財務諸表への影響を認識しております。税務ポジションに関連するベネフィットは、税務当局との解決により、50%超の可能性で実現が期待される最大金額で測定されます。未認識税務ベネフィットに関する利息及び課徴金については、四半期連結損益計算書の「法人税等」に計上しております。

デリバティブ

連結会社は、主として金利変動リスクや為替変動リスクの軽減、商品や取引契約の相場変動リスクの回避を目的として、デリバティブ取引を利用しており、全てのデリバティブ取引を公正価値で資産又は負債として計上しております。

連結会社は、ヘッジ指定されたデリバティブ取引は、通常、デリバティブの契約日において、ヘッジ会計の要件を満たす限り、当該デリバティブを公正価値ヘッジ又はキャッシュ・フローヘッジとしてヘッジ指定しております。

公正価値ヘッジ

公正価値ヘッジとして指定されるデリバティブは、主として固定金利付資産・負債を変動金利付資産・負債に変換する金利スワップです。ヘッジ対象の資産・負債及びヘッジ手段であるデリバティブ取引の公正価値の変動は、損益として計上しており、ヘッジ対象の資産、負債及び確定契約の公正価値の変動額による損益と相殺して「その他の損益－純額」として計上しております。

キャッシュ・フローヘッジ

キャッシュ・フローヘッジとして指定したデリバティブは、主として変動金利付負債を固定金利付負債に変換する金利スワップ、及び予定販売取引に係る機能通貨ベースのキャッシュ・フローの変動を減殺する為替予約です。また、商品スワップ及び先物契約も利用しており、キャッシュ・フローヘッジとして指定しております。キャッシュ・フローヘッジとして指定したデリバティブの公正価値の変動額は、ヘッジ対象取引が実行され損益に計上されるまで「累積その他の包括損益」として繰り延べております。「累積その他の包括損益」に計上されたデリバティブ関連の損益は、対応するヘッジ対象取引が四半期連結損益計算書で認識された時点で損益に振替えております。

在外事業体に対する純投資のヘッジ

連結会社は、在外事業体に対する純投資の為替変動リスクを回避するために、為替予約及び外貨借入債務などのデリバティブ取引以外の金融商品を活用しております。ヘッジ手段であるデリバティブ取引の公正価値の変動は、「累積その他の包括損益」に含まれる為替換算調整勘定に計上されております。

ヘッジ活動以外に用いられるデリバティブ取引

連結会社は、商品先物市場におけるブローカー業務やトレーディング活動の一環として、商品デリバティブ契約や金融デリバティブ契約を締結しております。連結会社は、ブローカー業務及びトレーディング活動に係るデリバティブ取引とリスク管理目的で利用するデリバティブ取引とを明確に区分しております。また、連結会社は、内部統制上の方針として、デリバティブ取引に伴う潜在的な損失を管理するため厳格なポジションの限度枠を設定し、その準拠状況をみるために定期的にポジションを監視しております。

ヘッジ指定されていない乃至はトレーディング目的で取得したデリバティブ取引の公正価値の変動は、損益計上しております。連結会社は、マスターネットティング契約の下で締結されたデリバティブ取引について認識された公正価値額と、同一相手先に生じる現金担保を回収する権利（債権）若しくは、現金担保を返済する義務（債務）として認識された公正価値額との相殺を選択適用しております。

四半期連結財務諸表作成にあたっての見積りの使用

四半期連結財務諸表を一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成する際には、報告金額に影響を与えるような見積り又は前提を用いる必要があります。見積りに内在する不確実性により、実績が見積りと異なる場合があります。当第2四半期連結財務諸表における重要な見積りには、貸倒引当金の設定、投資の評価、長期性資産の評価、年金、資産除去債務及び不確実な税務ポジション等があります。

1 株当たり四半期純利益

1株当たり四半期純利益は、当社株主に帰属する四半期純利益を各算定期間における発行済普通株式の加重平均株式数で除して算出しております。潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在的普通株式であるストックオプションや転換社債型新株予約権付社債の希薄化効果の影響を勘案して算出しております。

保証

連結会社は、保証の履行義務を保証開始時に公正価値にて負債として認識しております。

公正価値の測定

特定の資産・負債は、公正価値によって計上されることが求められております。当該資産・負債の公正価値は、市場の情報や算出手順に基づき、決定されております。公正価値の測定に使用されるインプットには、以下の3つのレベルがあります。

レベル1

測定日現在で連結会社がアクセスできる活発な市場における同一の資産又は負債の価格を、調整を入れずにそのまま使用しております。

レベル2

活発な市場における類似の資産又は負債の公表価格、活発でない市場における同一の資産又は負債の公表価格、資産又は負債の観察可能な公表価格以外のインプット、及び相關その他の手法により、観察可能な市場データによって主に算出または裏付けられたインプットを含んでおります。

レベル3

限られた市場のデータしか存在しないために、市場参加者が資産又は負債の価格を決定するうえで使用している前提条件についての連結会社の判断を反映した観察不能なインプットを使用しております。連結会社は、連結会社自身のデータを含め、入手可能な最良の情報に基づき、インプットを算定しております。

公正価値オプション

連結会社は、公正価値で測定することを求められていない特定の金融資産及び金融負債について、公正価値で測定するオプションを選択しておりません。

子会社の決算期変更

前連結会計年度において、より適正な期間損益を連結財務諸表に反映させるため、一部の連結子会社は、従来の12月決算から当社の決算月である3月に決算月を変更しております。これに伴い、当社は連結子会社における決算期の変更を反映させるため、過去の連結財務諸表を遡及的に調整しております。

前第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結会計期間における遡及適用の影響は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間（百万円）	
	遡及適用前	遡及適用後
連結損益計算書		
非支配持分控除前四半期純利益	285,940	286,264
当社株主に帰属する四半期純利益	267,797	267,958
連結キャッシュ・フロー計算書		
営業活動によるキャッシュ・フロー	186,794	209,465
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 128,748	△ 129,820
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 58,862	△ 58,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,072,830	1,081,579

	前第2四半期連結累計期間（円）	
	遡及適用前	遡及適用後
1株当たり四半期純利益		
当社株主に帰属する四半期純利益		
基本的	162.93	163.03
潜在株式調整後	162.52	162.62

	前第2四半期連結会計期間（百万円）	
	遡及適用前	遡及適用後
連結損益計算書		
非支配持分控除前四半期純利益	136,623	136,146
当社株主に帰属する四半期純利益	127,363	127,118

	前第2四半期連結会計期間（円）	
	遡及適用前	遡及適用後
1株当たり四半期純利益		
当社株主に帰属する四半期純利益		
基本的	77.49	77.34
潜在株式調整後	77.29	77.14

後発事象

連結会社は、四半期連結貸借対照表日から四半期連結財務諸表が公表されるまでの期間に発生した事象について、会計処理及び開示の要否を評価しております。

新会計基準

平成21年10月、審議会はAccounting Standards Update第2009-13号「収益の認識－複数の製品・サービスが提供される取引の収益の配分に係る会計処理－米国発生問題専門委員会の合意」（以下「ASU2009-13」）を公表しました。ASU2009-13は、複数の製品・サービスが提供される取引の収益を分離するための基準を修正しており、提供物の販売価格について売り手固有の客観的証拠又は第三者の証拠がない場合には、見積販売価格を用いて各提供物に収益を配分することを要求しております。その結果、収益を配分する際に残余法を使用することが禁止されております。また、ASU2009-13は、取引契約において収益を配分する方法、並びにそれにあたり行った重要な見積り及びその収益認識への影響について開示を要求しております。ASU2009-13は平成22年6月15日以降に開始する会計年度から適用され、連結会社においては平成23年4月1日よりASU2009-13を適用しております。当第2四半期においてASU2009-13の適用が連結会社の財政状態及び経営成績に与える重要な影響はありません。

平成22年4月、審議会はAccounting Standards Update第2010-17号「収益の認識－マイルストーン法」（以下「ASU2010-17」）を公表しました。ASU2010-17は、マイルストーンと呼ばれる、不確実な将来事象の達成により支払われる条件付対価についての収益認識モデルを構築しています。ASU2010-17の適用範囲は研究又は開発の取り決めに限定されています。ASU2010-17は平成22年6月15日以降に開始する会計年度から適用され、連結会社においては平成23年4月1日よりASU2010-17を適用しております。当第2四半期においてASU2010-17の適用が連結会社の財政状態及び経営成績に与える影響はありません。

平成23年4月、審議会はAccounting Standards Update第2011-02号「リストラクチャリングがトラブルド・デット・リストラクチャリングであるかどうかの債権者による決定」（以下「ASU2011-02」）を公表しました。ASU2011-02は、減損損失の測定及びトラブルド・デット・リストラクチャリングの開示の為に、ローンの修正又はリストラクチャリングがトラブルド・デット・リストラクチャリングに該当するか否かの指針を与えています。ローンの修正又はリストラクチャリングがトラブルド・デット・リストラクチャリングに該当するか否かの判定にあたっては、債権者は、ローンの修正又はリストラクチャリングが債権者による譲歩にあたるか否か、及び債務者が財政的に困難な状態にあるか否かについてそれぞれ結論付ける必要があります。ASU2011-02は平成23年6月15日以降に開始する最初の四半期会計期間又は会計年度から適用され、連結会社においては平成23年7月1日よりASU2011-02を適用しております。当第2四半期においてASU2011-02の適用が連結会社の財政状態及び経営成績に与える影響はありません。

3. 市場性のある有価証券及び市場性のない投資

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における市場性のある有価証券及び市場性のない投資の内訳は次のとおりです。

(短期運用資産)

区分	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
売買目的有価証券	9,183	9,355
売却可能有価証券(現金及び現金同等物を除く)	33,458	14,456
合計	42,641	23,811

(その他の投資)

区分	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
売却可能有価証券	1,097,943	921,612
債券及び市場性のある株式以外の投資	424,272	487,248
合計	1,522,215	1,408,860

債券及び市場性のある株式

連結会社が保有する全ての債券及び市場性のある株式は、売買目的有価証券もしくは売却可能有価証券に分類されております。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における売買目的有価証券及び売却可能有価証券に分類された有価証券に関する情報は以下のとおりです。なお、公正価値については注記7に基づき算定しております。

(前連結会計年度末)

区分	原価 (百万円)	未実現評価益 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)
売買目的有価証券				9,183
売却可能有価証券				
市場性のある株式	496,903	541,242	△9,902	1,028,243
債券	121,894	1,251	△3,390	119,755
売却可能有価証券合計	618,797	542,493	△13,292	1,147,998

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	原価 (百万円)	未実現評価益 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)
売買目的有価証券				9,355
売却可能有価証券				
市場性のある株式				
国内	374,717	226,841	△15,903	585,655
海外	116,597	171,887	△3,589	284,895
株式合計	491,314	398,728	△19,492	870,550
債券				
国内	13,315	7	△7	13,315
海外	60,782	262	△5,842	55,202
債券合計	74,097	269	△5,849	68,517
売却可能有価証券合計	565,411	398,997	△25,341	939,067

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、売却可能有価証券に分類された株式は、主に国内銘柄であり、債券は主にコマーシャル・ペーパー及び社債からなっております。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、連結貸借対照表の現金及び現金同等物に含まれている取得日からの償還期日が3ヶ月以内の売却可能有価証券に分類された債券の帳簿価額は、それぞれ16,597百万円及び2,999百万円です。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における売却可能有価証券に分類された債券の貸借対照表価額の期日別内訳は以下のとおりです。なお、モーゲージ証券のような一部の債券については、債券発行者が契約上の最終満期日前に償還する権利を有している場合があるため、満期日が単一ではありません。このため、当該債券については、期末日時点で償還が期待される満期日に基づき分類しております。

(前連結会計年度末)

区分	前連結会計年度末 (百万円)
1年以内	50,056
1年超5年以内	53,325
5年超10年以内	16,374
10年超	—
合計	119,755

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
1年以内	
国内	8,089
海外	9,366
1年以内 合計	17,455
1年超5年以内	
国内	5,186
海外	33,099
1年超5年以内 合計	38,285
5年超10年以内	
国内	40
海外	12,737
5年超10年以内 合計	12,777
10年超	
国内	—
海外	—
10年超 合計	—
合計	68,517

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却収入額、売却益及び売却損の総額は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
売却収入	28,198	4,907
売却益	20,637	2,742
売却損	△192	△164
売却損益(純額)	20,445	2,578

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却収入額、売却益及び売却損の総額は以下のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
売却収入	382	798
売却益	211	392
売却損	△12	△80
売却損益(純額)	199	312

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間において保有する売買目的有価証券に関し、損益認識された金額(純額)は、それぞれ288百万円及び818百万円の損失です。

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間において保有する売買目的有価証券に関し、損益認識された金額(純額)は、それぞれ227百万円及び256百万円の損失です。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間において、売却可能有価証券に分類された市場性のある株式及び債券のうち、公正価値の下落が一時的ではないと判断し、連結損益計算書上に計上した減損額は、それぞれ11,012百万円及び1,518百万円です。

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間において、売却可能有価証券に分類された市場性のある株式及び債券のうち、公正価値の下落が一時的ではないと判断し、連結損益計算書上に計上した減損額は、それぞれ1,563百万円及び1,111百万円です。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間までに、保有している海外債券について認識した減損額は、全て信用毀損によるものであり、その推移は以下のとおりです。なお、国内債券について認識した減損額はありません。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
期首残高	8,296	8,310
過年度に減損認識済みの債券に関連する増加	14	—
過年度に減損未認識の債券に関連する増加	—	—
売却や償還による減少	—	—
期末残高	8,310	8,310

信用毀損による減損の認識及び測定にあたっては、投資格付、投資契約の内容、担保の状況、キャッシュ・フローに係る権利及び優位性、及び発行体の状況を総合的に評価の上、算出しております。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、一時的な下落と判断される未実現評価損を有する投資の未実現評価損及び公正価値を、投資分類及び未実現評価損が継続している期間別に集計すると以下のとおりです。

(前連結会計年度末)

区分	下落期間12ヶ月未満		下落期間12ヶ月以上		合計	
	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)
市場性のある株式	146,987	△7,458	13,726	△2,444	160,713	△9,902
債券	7,663	△12	39,431	△3,378	47,094	△3,390
合計	154,650	△7,470	53,157	△5,822	207,807	△13,292

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	下落期間12ヶ月未満		下落期間12ヶ月以上		合計	
	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)	公正価値 (百万円)	未実現評価損 (百万円)
市場性のある株式						
国内	142,730	△12,687	13,819	△3,216	156,549	△15,903
海外	18,150	△3,566	70	△23	18,220	△3,589
合計	160,880	△16,253	13,889	△3,239	174,769	△19,492
債券						
国内	2,993	△7	0	0	2,993	△7
海外	31,272	△1,515	18,303	△4,327	49,575	△5,842
合計	34,265	△1,522	18,303	△4,327	52,568	△5,849
合計	195,145	△17,775	32,192	△7,566	227,337	△25,341

市場性のある国内株式及び海外株式

市場性のある国内株式及び海外株式の未実現評価損は、主として市場価格の変動により生じているものです。当社は売却可能有価証券と分類される市場性のある国内株式及び海外株式への投資の公正価値の下落が一時的か否かの判断について、市場価額が帳簿価額を下回る期間や程度、予測される市場価額の回復期間にわたり当該証券を保有する意思と能力の有無等を考慮して判断しており、当第2四半期連結会計期間末において、これらの投資に係る未実現評価損は、一時的でない下落に基づく減損ではないと判断しております。

国内債券及び海外債券

国内債券及び海外債券の未実現評価損は、主として金利の変動により生じているものです。当社はこれらの投資を売却する意思がないことや簿価が回復するまでの間に売却することを余儀なくされる可能性が低いことを定期的に確認していること、また、当社は投資格付、投資契約の内容、担保の状況、キャッシュ・フローに係る権利及び優位性、並びに発行体の状態について継続的な評価を行っており、現在のところ、これらの投資が償還期限に全額返済されると考えていることから、当第2四半期連結会計期間末において、これらの投資に係る未実現評価損は、一時的でない下落に基づく減損ではないと判断しております。

市場性のある株式及び債券以外の投資

「その他の投資」は、市場性のない非関連会社、すなわち顧客、仕入先及び金融機関に対する投資、差入保証金や長期の定期預金等を含み、市場性のない非関連会社に対する投資に係る前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末の残高は、それぞれ340,254百万円及び310,411百万円です。また、差入保証金や長期の定期預金等に係る前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末の残高はそれぞれ84,018百万円及び176,837百万円です。

市場性のない非関連会社に対する投資は公正価値を容易に入手することが困難なため、取得原価で計上しております（「原価法投資」）。しかし、公正価値に重要な影響を及ぼす事象の発生や状況の変化が見られた場合には、注記7に基づき公正価値を測定し、当該公正価値と帳簿価額を比較して、その下落が一時的でないとは判断されたときは、当該見積公正価値まで減損を行っております。減損の判定を実施しなかった原価法投資の残高は、前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末で、それぞれ337,238百万円及び308,601百万円です。減損の判定を実施しなかったのは、公正価値に重要な影響を及ぼす事象の発生や状況の変化が見られなかったためです。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間に計上された原価法投資の減損額は、それぞれ2,828百万円及び873百万円です。

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間に計上された原価法投資の減損額は、それぞれ2,068百万円及び361百万円です。

4. 貸倒引当金

連結会社は、様々な営業取引を行うことによって、取引先に対して信用供与を行っており、取引先の信用悪化や経営破綻などにより損失が発生する信用リスクを負っております。

連結会社の取引先は多種多様な業種や業界にわたっておりますが、連結会社は、信用リスクの性質及び特徴は業種や業界に係らず、取引先の財務状態をインプットとする一定のフォーミュラにより定量化できると捉えており、測定された信用リスクの総量が、連結会社の抱える市場や為替といった他のリスクと比べて大きくないことから、業種や業界別の管理を行っておりません。

従って、連結会社は原則として単一の社内制度に基づき信用リスクの管理、貸倒引当金の設定要否の判断及び金額の決定を行っております。

但し、取引先が個人の場合には決算書の取り付けができず財務状態の把握に限界があることから、法人とは区分して管理しております。個人宛取引には、主に自動車の販売金融事業における個人宛貸付などが含まれております。

連結会社は、長期・短期を問わず、契約上のキャッシュを受け取ることが出来る権利がある債権について、現在の状況から債権全額（元利合計）を当初の契約条件に従って回収することが出来ない可能性が高いと判断される場合に、減損債権として判定しております。

但し、遅延が発生していても、遅延期間の利息を含む全額が回収できると判断できる場合には、減損債権とは取り扱っておりません。なお、減損債権に関する受取利息は原則として現金主義により計上しており、当第2四半期連結累計期間に計上した受取利息は僅少です。

連結会社は、契約条件に基づく期日から回収が遅延している金融債権について適切な貸倒引当金を設定しており、法的整理などによって代金を回収する権利が失われた段階で切捨処理をしております。なお、遅延債権に関する受取利息は原則として現金主義により計上しており、当第2四半期連結累計期間に計上した受取利息は僅少です。

法人宛取引債権と個人宛取引債権に関する信用リスク管理方針及び貸倒引当金の計上方針は以下のとおりとなっております。

法人宛取引債権

連結会社は、信用リスクを管理するために取引先毎に成約限度額・信用限度額を定めると同時に、取引先の財務情報、外部格付機関による評価、その他の情報に基づき決定する社内格付制度を導入し、信用供与の指標としております。なお、社内格付は、1年に一度更新を行っております。

連結会社は、取引先の社内格付及び財務状態に基づいて、減損債権の判定を行っております。減損債権と判定された債権に対しては、債権の内容、過去の貸倒実績、債権残高に対する損失発生の可能性の評価、格付機関による評価及びその他の情報に基づき、それぞれの取引先に対して適切な金額の貸倒引当金を設定しております。長期債権の評価については、割引キャッシュ・フロー法に基づく評価を実施しており、評価に当たっては将来の返済計画予想及び割引率などの前提条件を使用しております。また、連結会社は減損債権以外の債権を集合的に評価し、適切な金額の貸倒引当金を設定しております。

個人宛取引債権

連結会社は、信用リスクを管理するために顧客の評価を継続して行っており、支払実績に基づく現在の顧客の信用状態に基づき、個々の信用限度額を設定しております。

連結会社は、顧客からの回収遅延の事実に基づいて、減損債権の判定を行っております。減損債権と判定された債権に対しては、遅延期間や回収の状況及びその他の情報に基づき、それぞれの顧客に対して適切な貸倒引当金を設定しております。また、連結会社は減損債権以外の債権を集合的に評価し、適切な金額の貸倒引当金を設定しております。

減損債権

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における減損債権及び貸倒引当金の残高は以下のとおりです。

区分		前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
減損債権	法人宛	52,573	50,414
	個人宛	7,392	6,957
	合計	59,965	57,371
貸倒引当金	法人宛	33,966	32,469
	個人宛	3,908	3,522
	合計	37,874	35,991

(注) 当第2四半期連結累計期間における減損が生じた債権の期中平均残高は、法人宛が51,494百万円、個人宛が7,175百万円です。

また、前第4四半期連結会計期間における減損が生じた債権の期中平均残高は、法人宛が54,973百万円、個人宛が12,266百万円です。

金融債権に関する貸倒引当金

当第2四半期連結会計期間末における金融債権及び貸倒引当金の残高と、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に於ける金融債権見合いの貸倒引当金の推移は以下のとおりです。なお、金融債権は貸付金や長期営業債権など、融資・ファイナンスの性格を有した債権を対象としており、短期の売掛金など融資・ファイナンスの性格を有していない債権は含めておりません。

金融債権は連結貸借対照表上、主に「短期貸付金等」、「長期貸付金及び長期営業債権」に含まれております。

(当第2四半期連結累計期間)

	法人宛 (百万円)	個人宛 (百万円)
前連結会計年度末残高	30,393	6,886
貸倒引当金繰入額	136	1,160
取崩額：		
切捨	△3,337	△1,689
回収	542	693
その他（注1）	596	△747
当第2四半期会計期間末残高	28,330	6,303
(内訳)		
信用の質が高い金融債権に設定された貸倒引当金	2,190	2,781
信用の質が低い金融債権に設定された貸倒引当金（注2）	26,140	3,522
信用の質が高い金融債権残高	640,335	285,182
信用の質が低い金融債権残高	38,621	6,957
金融債権残高合計	678,956	292,139

（注1）「その他」には、主に連結除外及び為替変動の影響などが含まれております。

（注2）「信用の質が低い金融債権に設定された貸倒引当金」は、金融債権を個別に測定して減損債権の判定を行い、設定した貸倒引当金を指します。

(当第2四半期連結会計期間)

	法人宛 (百万円)	個人宛 (百万円)
当第1四半期会計期間末残高	30,204	6,810
貸倒引当金(戻入)繰入額	△220	493
取崩額:		
切捨	△2,769	△670
回収	519	243
その他(注1)	596	△573
当第2四半期会計期間末残高	28,330	6,303

(注1)「その他」には、主に連結除外及び為替変動の影響などが含まれております。

回収が遅延している金融債権

遅延金融債権の回収遅延期間別残高

当第2四半期連結会計期間末において、回収が遅延している金融債権の回収遅延期間別残高は以下のとおりです。

法人宛金融債権

回収遅延期間	当第2四半期連結会計期間末(百万円)
1年以内	12,728
1年超2年以内	1,019
2年超3年以内	797
3年超4年以内	1,109
4年超5年以内	2,274
5年超	18,525
合計	36,452

個人宛金融債権

回収遅延期間	当第2四半期連結会計期間末(百万円)
3ヶ月以内	10,991
3ヶ月超6ヶ月以内	1,808
6ヶ月超1年以内	371
1年超	2,187
合計	15,357

不良債権のリストラクチャリング

連結会社は、債務者の財政難に関連して、経済的又は法的な理由から3ヶ月以上の決済猶予や債権金額の減額等の契約条件の変更を行い、債務者に対し譲歩を行った際に、不良債権のリストラクチャリングとし、適切な引当金の設定を行っております。

法人宛金融債権

当第2四半期連結累計期間中に発生した重要な不良債権のリストラクチャリングは、当初は商品を9,450百万円で売却する売買契約であったものを、売買契約の売先とは異なる法人を賃貸先として賃貸期間5年～15年間で賃貸を行い、賃貸期間終了後に当該商品を残価値で売買契約の売先へ売却する、との契約条件の変更を行ったことに伴い、実質的に売買契約の売先からの回収金額の減額及び決済条件の延長を行ったものです。連結会社は、当該契約変更に当たって、賃貸する商品の所有権を保有し（賃貸料回収が滞った際には、賃貸商品を時価で転売し、回収を行う予定）、当該商品の時価相当額を考慮の上、賃貸契約及び賃貸後の売却金額に基づく回収予定額を勘案し、貸倒引当金の設定を行っております。当該契約の変更が連結会社の財政状態及び経営成績に与える影響は軽微です。

個人宛金融債権

当第2四半期連結累計期間中に発生した不良債権のリストラクチャリングのうち重要なものはありません。

なお、連結会社が有する金融債権のうち、2011年4月1日以降に不良債権のリストラクチャリングが発生し、当第2四半期連結累計期間中に支払い不履行があったものは僅少です。

5. 担保差入資産

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における短期借入金、長期借入債務及び取引保証等に対する担保差入資産は以下のとおりです。

科目	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
受取手形、売掛金及び貸付金等（短期及び長期）	32,328	27,332
投資有価証券（貸借対照表計上額）	94,478	72,364
有形固定資産（減価償却累計額控除後）	236,221	228,688
その他	25,166	6,955
合計	388,193	335,339

上記の担保差入資産を見合債務の種類別に分類すると以下のとおりです。

区分	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
短期借入金	17,203	13,559
長期借入債務	235,291	219,769
取引保証等	135,699	102,011
合計	388,193	335,339

連結会社は、輸入金融の方法として、通常は銀行にトラスト・レシート（輸入担保荷物保管証）を差し入れ、その銀行に対して輸入商品又はその売却代金に対する担保権を付与しております。輸入業務が量的に膨大であることから、手形を期日に決済するにあたり、個々に当該手形とその売却代金との関連付けは行っておりません。従って、これらトラスト・レシートの対象となっている資産総額を確定することは実務上困難です。

また連結会社は、上記の担保差入資産とは別に、特定の条件下において、銀行から担保（又は追加担保）の差し入れを求められる場合があります。

6. デリバティブ取引及びヘッジ活動

リスク管理全般

連結会社は、通常の営業活動において、金利変動、為替変動及び商品相場変動などの市場リスクに晒されておりま
す。これらのリスクを管理するため、連結会社は、原則として、リスクの純額を把握して、ナチュラルヘッジを有効に
活用しております。更に、取引相手先に関するリスク管理方針に則って様々なデリバティブ取引を締結し、特定リスク
の軽減を図っております。

連結会社の利用しているデリバティブ取引は、主に金利スワップ、為替予約、通貨スワップ、商品先物取引です。こ
れらヘッジ手段の公正価値の変動は、その一部もしくは全部が、対応するヘッジ対象取引の公正価値の変動又はキャッ
シュ・フローの変動によって相殺されます。実務上可能な場合には常に、ヘッジ会計の適用要件を満たすべく特定リス
クに対してヘッジ指定を行っております。こうした状況下、連結会社は、ヘッジの開始時及び継続期間中に亘って、ヘ
ッジ手段のデリバティブ取引がヘッジ対象取引の公正価値の変動又はキャッシュ・フローの変動と高い相殺関係がある
かどうかに関する有効性評価を実施しております。デリバティブ取引に関してヘッジとしての有効性が認められないと
判断した場合は、そのデリバティブに対するヘッジ会計の適用を中止しております。

連結会社は、信用リスクに関連した偶発条項を含む重要性のあるデリバティブ契約を締結しておりません。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末におけるデリバティブ取引の想定元本金額は、以下のとおり
です。

デリバティブ契約	想定元本（十億円）	
	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末
金利契約	2,799	2,745
外国為替契約	2,246	2,071
コモディティ契約	6,864	6,187
合計	11,909	11,003

金利変動リスクの管理

連結会社のファイナンス、投資活動、資金管理などの業務は、金利変動に伴う市場リスクに晒されております。これ
らのリスクを管理するために、連結会社は金利スワップ契約を締結しております。金利スワップは、多くの場合、固定
金利付資産・負債を変動金利付資産・負債に変換するために、また一部の変動金利付資産・負債を固定金利付資産・負
債に変換するために利用しております。固定金利付及び変動金利付の資産・負債の割合を維持することによって、資産
負債に関するキャッシュ・フローの全体の価値を管理しております。

為替変動リスクの管理

連結会社は、グローバルに企業活動を行っており、各社が拠点とする現地通貨以外による売買取引、ファイナンス、
投資に伴う為替変動リスクに晒されております。連結会社は、ナチュラルヘッジを有効に利用して資産や負債、未認識
の確定契約に対する為替リスクを相殺すること、及び非機能通貨のキャッシュ・フローの経済価値を保全するべく為替
予約などの契約を利用することにより、為替変動リスクを管理しております。これら外貨建契約がヘッジ手段として指
定されていない場合であっても、連結会社は、これらの取引が為替変動による影響を有効に相殺していると判断して
おります。ヘッジ対象となる主な通貨は、米ドル、ユーロ、豪ドルです。

商品相場変動リスクの管理

連結会社は、売買取引及びその他の営業活動において、様々な商品の相場変動リスクに晒されております。連結会社
は、リスク管理方針に基づき、商品相場のリスクをヘッジするべく商品先物、商品先渡、商品オプション、商品スワ
ップを利用しております。これらの契約は、公正価値ヘッジ及びキャッシュ・フローヘッジとしてヘッジ指定された一部
の取引を除き、ヘッジ指定はしておりません。

公正価値ヘッジ

公正価値ヘッジとして指定されるデリバティブは、主として固定金利付資産・負債を変動金利付資産・負債に変換する金利スワップです。

キャッシュ・フローヘッジ

キャッシュ・フローヘッジとして指定したデリバティブは、主として変動金利付負債を固定金利付負債に変換する金利スワップ、及び予定販売取引に係る機能通貨ベースのキャッシュ・フローの変動を減殺する為替予約です。また、商品スワップ及び先物契約も利用しており、キャッシュ・フローヘッジとして指定しております。現在の未決済となっている契約は、平成32年までの予定取引をヘッジしております。

在外事業体に対する純投資のヘッジ

当社は、在外事業体に対する純投資の為替変動リスクを回避するために、為替予約及び外貨建借入債務などのデリバティブ取引以外の金融商品を活用しております。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、為替換算調整勘定に含まれているこれらのヘッジ手段に係る純損益の金額は、38,180百万円の利益及び34,266百万円の利益となっております。

ヘッジ活動以外に用いられるデリバティブ取引

当社及び一部の子会社は、商品先物市場におけるブローカー業務やトレーディング活動の一環として、商品デリバティブ契約や金融デリバティブ契約を締結しております。連結会社は、ブローカー業務及びトレーディング活動に係るデリバティブ取引とリスク管理目的で利用するデリバティブ取引とを明確に区分しております。また、連結会社は、内部統制上の方針として、デリバティブ取引に伴う潜在的な損失を最小化するため厳格なポジションの限度枠を設定し、その準拠状況をみるために定期的にポジションを監視しております。

連結貸借対照表におけるデリバティブ及びヘッジの影響

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、ヘッジ指定されているデリバティブ契約の公正価値（相殺処理前）、及びヘッジが指定されていないデリバティブ契約の公正価値（相殺処理前）は以下のとおりです。

（前連結会計年度末）

デリバティブ契約	連結貸借対照表科目 (資産)	公正価値 (百万円)	連結貸借対照表科目 (負債)	公正価値 (百万円)
ヘッジ指定されているデリバティブ				
金利契約	その他の流動資産	838	その他の流動負債	25
	その他の資産	59,720	その他の固定負債	7,841
外国為替契約	その他の流動資産	46,956	その他の流動負債	2,549
	その他の資産	2,047	その他の固定負債	2,306
コモディティ契約	その他の流動資産	2,717	その他の流動負債	7,042
	その他の資産	6,286	その他の固定負債	103
	小計	118,564	小計	19,866
ヘッジ指定されていないデリバティブ				
金利契約	その他の流動資産	201	その他の流動負債	412
	その他の資産	11,772	その他の固定負債	12,996
外国為替契約	その他の流動資産	46,563	その他の流動負債	18,378
	その他の資産	17,408	その他の固定負債	3,889
コモディティ契約	その他の流動資産	210,384	その他の流動負債	217,468
	その他の資産	24,433	その他の固定負債	25,653
	小計	310,761	小計	278,796
	合計（総額）	429,325	合計（総額）	298,662
	資産・負債相殺額	△232,976	資産・負債相殺額	△231,792
	その他の流動資産 計上額	117,707	その他の流動負債 計上額	48,243
	その他の資産 計上額	78,642	その他の固定負債 計上額	18,627
	合計 (連結貸借対照表上の デリバティブ資産)	196,349	合計 (連結貸借対照表上の デリバティブ負債)	66,870

(注) 連結会社は、取引相手先との間に法的拘束力のあるマスターネットティング契約が存在する場合、デリバティブ資産・負債とデリバティブ契約締結先に対する差入現金担保・預り現金担保を相殺しています。前連結会計年度末において、相殺した差入現金担保、預り現金担保は、それぞれ41,935百万円、43,119百万円です。また、相殺されなかった差入現金担保、預り現金担保は、それぞれ17,019百万円、20,285百万円です。

ヘッジ手段	連結貸借対照表科目	帳簿価額 (百万円)
ヘッジ手段に指定されているデリバティブ取引以外の金融商品		
外貨建借入債務	一年以内に期限の到来する 長期借入債務	3,991
	長期借入債務 (一年以内の期限到来分を除く)	39,912
	合計	43,903

(当第2四半期連結会計期間末)

デリバティブ契約	連結貸借対照表科目 (資産)	公正価値 (百万円)	連結貸借対照表科目 (負債)	公正価値 (百万円)
ヘッジ指定されているデリバティブ				
金利契約	その他の流動資産	526	その他の流動負債	35
	その他の資産	73,521	その他の固定負債	3,316
外国為替契約	その他の流動資産	7,098	その他の流動負債	16,076
	その他の資産	1,773	その他の固定負債	2,428
コモディティ契約	その他の流動資産	8,632	その他の流動負債	53
	その他の資産	1,034	その他の固定負債	2,175
	小計	92,584	小計	24,083
ヘッジ指定されていないデリバティブ				
金利契約	その他の流動資産	424	その他の流動負債	585
	その他の資産	9,464	その他の固定負債	12,690
外国為替契約	その他の流動資産	66,870	その他の流動負債	32,367
	その他の資産	13,488	その他の固定負債	5,269
コモディティ契約	その他の流動資産	461,767	その他の流動負債	422,668
	その他の資産	27,839	その他の固定負債	28,337
	小計	579,852	小計	501,916
	合計(総額)	672,436	合計(総額)	525,999
	資産・負債相殺額	△430,539	資産・負債相殺額	△413,504
	その他の流動資産 計上額	154,336	その他の流動負債 計上額	95,948
	その他の資産 計上額	87,561	その他の固定負債 計上額	16,547
	合計 (連結貸借対照表上の デリバティブ資産)	241,897	合計 (連結貸借対照表上の デリバティブ負債)	112,495

(注) 連結会社は、取引相手先との間に法的拘束力のあるマスターネットリング契約が存在する場合、デリバティブ資産・負債とデリバティブ契約締結先に対する差入現金担保・預り現金担保を相殺しています。
当第2四半期連結会計期間末において、相殺した差入現金担保、預り現金担保は、それぞれ6,792百万円、23,827百万円です。また、相殺されなかった差入現金担保、預り現金担保は、それぞれ7,404百万円、6,872百万円です。

ヘッジ手段	連結貸借対照表科目	帳簿価額 (百万円)
ヘッジ手段に指定されているデリバティブ取引以外の金融商品		
外貨建借入債務	一年以内に期限の到来する 長期借入債務	3,679
	長期借入債務 (一年以内の期限到来分を除く)	34,952
	合計	38,631

連結損益計算書及びその他の包括損益におけるデリバティブ及びヘッジの影響

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間におけるデリバティブ取引の損益は以下のとおりです。

(前第2四半期連結累計期間)

公正価値ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ及びヘッジ対象の損益計上科目	デリバティブ金額 (百万円)	ヘッジ対象金額 (百万円)
金利契約	その他の損益－純額	25,419	△25,436
外国為替契約	その他の損益－純額	△241	282
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	2,090	△2,090

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結累計期間において、確定契約に対する公正価値ヘッジのうち、ヘッジ会計の要件を満たさなくなった結果、損益計上したものはありません。
3. 「収益及び収益に係る原価」に対する連結損益計算書における計上科目は「収益合計」と「商品販売及び製造業等による収益に係る原価」です。以下の各表においても同様です。

キャッシュ・フローヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 (百万円)	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額の計上科目	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額－有効部分(百万円)
金利契約	△2,200	支払利息	△177
外国為替契約	23,350	その他の損益－純額	10,537
コモディティ契約	△7,993	収益及び収益に係る原価	△1,575

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結累計期間において、予定取引が当初予定していた時期までに実行されないためにキャッシュ・フローヘッジを終了した結果、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額－有効部分 (百万円)
外国為替契約	411

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結累計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ取引以外の金融商品

ヘッジ手段	その他の包括損益計上額－有効部分 (百万円)
外貨建借入債務	2,226

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結累計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

ヘッジ指定されていないデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ損益の計上科目	連結損益計算書上金額 (百万円)
金利契約	支払利息	1,340
	その他の損益－純額	△334
外国為替契約	支払利息	△863
	その他の損益－純額	10,536
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	△2,133

(当第2四半期連結累計期間)

公正価値ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ及び ヘッジ対象の損益計上科目	デリバティブ金額 (百万円)	ヘッジ対象金額 (百万円)
金利契約	その他の損益－純額	17,953	△17,951
外国為替契約	その他の損益－純額	△2,772	2,802
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	14,581	△14,581

- (注) 1. 当第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 当第2四半期連結累計期間において、確定契約に対する公正価値ヘッジのうち、ヘッジ会計の要件を満たさなくなった結果、損益計上したものはありません。
3. 「収益及び収益に係る原価」に対する連結損益計算書における計上科目は「収益合計」と「商品販売及び製造業等による収益に係る原価」です。以下の各表においても同様です。

キャッシュ・フローヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 (百万円)	累積その他の包括損益から 連結損益計算書に振替えられ た金額の計上科目	累積その他の包括損益から 連結損益計算書に振替えられ た金額－有効部分(百万円)
金利契約	△1,481	支払利息	△143
外国為替契約	△17,902	その他の損益－純額	34,675
コモディティ契約	△9,487	収益及び収益に係る原価	△912

- (注) 1. 当第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 「累計その他の包括損益」に計上されたデリバティブ関連の損益は、対応するヘッジ対象取引が連結損益計算書で認識された時点で損益に振替えております。当第2四半期連結会計期間末において「累計その他の包括損益」に含まれているデリバティブの純損失のうち、約11,000百万円(税効果後)の損失が平成24年9月末までに損益に振替えられる見込です。
3. 当第2四半期連結累計期間において、予定取引が当初予定していた時期までに実行されないためにキャッシュ・フローヘッジを終了した結果、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 - 有効部分 (百万円)	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額の計上科目	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額 - 有効部分 (百万円)
外国為替契約	△3,472	有価証券損益	847

(注) 当第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ取引以外の金融商品

ヘッジ手段	その他の包括損益計上額 - 有効部分 (百万円)
外貨建借入債務	405

(注) 1. 当第2四半期連結累計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。

2. 当第2四半期連結累計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

ヘッジ指定されていないデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ損益の計上科目	連結損益計算書上金額 (百万円)
金利契約	支払利息	1,106
	その他の損益 - 純額	△314
外国為替契約	支払利息	△692
	その他の損益 - 純額	1,246
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	38,378

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間におけるデリバティブ取引の損益は以下のとおりです。

(前第2四半期連結会計期間)

公正価値ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ及びヘッジ対象の損益計上科目	デリバティブ金額 (百万円)	ヘッジ対象金額 (百万円)
金利契約	その他の損益 - 純額	9,162	△9,160
外国為替契約	その他の損益 - 純額	△3,099	2,961
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	△4,630	4,630

(注) 1. 前第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。

2. 前第2四半期連結会計期間において、確定契約に対する公正価値ヘッジのうち、ヘッジ会計の要件を満たさなくなった結果、損益計上したものはありません。

3. 「収益及び収益に係る原価」に対する連結損益計算書における計上科目は「収益合計」と「商品販売及び製造業等による収益に係る原価」です。以下の各表においても同様です。

キャッシュ・フローヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 (百万円)	累積その他の包括損益から 連結損益計算書に振替えられ た金額の計上科目	累積その他の包括損益から 連結損益計算書に振替えられ た金額 - 有効部分 (百万円)
金利契約	△1,299	支払利息	△83
外国為替契約	39,096	その他の損益－純額	1,757
コモディティ契約	3,539	収益及び収益に係る原価	△797

- (注) 1. 前第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結会計期間において、予定取引が当初予定していた時期までに実行されないためにキャッシュ・フローヘッジを終了した結果、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 - 有効部分 (百万円)
外国為替契約	2,593

- (注) 1. 前第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結会計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ取引以外の金融商品

ヘッジ手段	その他の包括損益計上額 - 有効部分 (百万円)
外貨建借入債務	2,416

- (注) 1. 前第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 前第2四半期連結会計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

ヘッジ指定されていないデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ損益の計上科目	連結損益計算書上金額 (百万円)
金利契約	支払利息	640
	その他の損益－純額	△57
外国為替契約	支払利息	△473
	その他の損益－純額	13,181
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	△463

(当第2四半期連結会計期間)

公正価値ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ及びヘッジ対象の損益計上科目	デリバティブ金額 (百万円)	ヘッジ対象金額 (百万円)
金利契約	その他の損益－純額	9,170	△9,168
外国為替契約	その他の損益－純額	△3,020	3,048
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	9,115	△9,115

- (注) 1. 当第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 当第2四半期連結会計期間において、確定契約に対する公正価値ヘッジのうち、ヘッジ会計の要件を満たさなくなった結果、損益計上したものはありません。
3. 「収益及び収益に係る原価」に対する連結損益計算書における計上科目は「収益合計」と「商品販売及び製造業等による収益に係る原価」です。以下の各表においても同様です。

キャッシュ・フローヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額 (百万円)	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額の計上科目	累積その他の包括損益から連結損益計算書に振替えられた金額－有効部分(百万円)
金利契約	68	支払利息	△83
外国為替契約	△31,913	その他の損益－純額	17,251
コモディティ契約	△5,708	収益及び収益に係る原価	△505

- (注) 1. 当第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 当第2四半期連結会計期間において、予定取引が当初予定していた時期までに実行されないためにキャッシュ・フローヘッジを終了した結果、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ

デリバティブ契約	その他の包括損益計上額－有効部分 (百万円)
外国為替契約	△2,240

- (注) 1. 当第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 当第2四半期連結会計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

純投資ヘッジとして指定されたデリバティブ取引以外の金融商品

ヘッジ手段	その他の包括損益計上額－有効部分 (百万円)
外貨建借入債務	1,281

- (注) 1. 当第2四半期連結会計期間において、ヘッジの非有効部分及びヘッジの有効性テストから除外された金額に重要性はありません。
2. 当第2四半期連結会計期間において、「累積その他の包括損益」から損益計上したものはありません。

ヘッジ指定されていないデリバティブ

デリバティブ契約	デリバティブ損益の計上科目	連結損益計算書上金額 (百万円)
金利契約	支払利息	622
	その他の損益－純額	△347
外国為替契約	支払利息	△244
	その他の損益－純額	△3,770
コモディティ契約	収益及び収益に係る原価	27,695

7. 公正価値測定

継続的に公正価値で測定される資産・負債

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における継続的に公正価値で評価される資産・負債の内訳は、以下のとおりです。

(前連結会計年度末)

区分	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	資産・負債 相殺額 (百万円)	合計 (百万円)
資産					
現金同等物	—	16,597	—		16,597
投資					
売買目的有価証券	23	—	9,160		9,183
売却可能有価証券					
株式	1,027,887	356	—		1,028,243
債券	6,357	96,801	—		103,158
投資計	1,034,267	97,157	9,160		1,140,584
デリバティブ					
金利契約	164	72,367	—		
外国為替契約	76	112,898	—		
コモディティ契約	20,125	222,344	1,351		
デリバティブ計	20,365	407,609	1,351	△232,976	196,349
資産合計	1,054,632	521,363	10,511	△232,976	1,353,530
負債					
デリバティブ					
金利契約	217	21,057	—		
外国為替契約	87	27,035	—		
コモディティ契約	22,739	226,199	1,328		
デリバティブ計	23,043	274,291	1,328	△231,792	66,870
負債合計	23,043	274,291	1,328	△231,792	66,870

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	資産・負債 相殺額 (百万円)	合計 (百万円)
資産					
現金同等物					
国内	—	2,999	—		2,999
海外	—	—	—		—
投資					
売買目的有価証券	—	—	9,355		9,355
売却可能有価証券					
株式					
国内	585,655	—	—		585,655
海外	284,575	320	—		284,895
債券					
国内	—	10,316	—		10,316
海外	9,905	45,297	—		55,202
投資計	880,135	55,933	9,355		945,423
デリバティブ					
金利契約	33	83,902	—		
外国為替契約	4	89,225	—		
コモディティ契約	51,266	445,906	2,100		
デリバティブ計	51,303	619,033	2,100	△430,539	241,897
資産合計	931,438	677,965	11,455	△430,539	1,190,319
負債					
デリバティブ					
金利契約	15	16,611	—		
外国為替契約	17	56,123	—		
コモディティ契約	33,619	417,524	2,090		
デリバティブ計	33,651	490,258	2,090	△413,504	112,495
負債合計	33,651	490,258	2,090	△413,504	112,495

(注) 1. 連結会社は、取引相手先との間に法的拘束力のあるマスターネットティング契約が存在する場合、デリバティブ資産・負債とデリバティブ契約締結先に対する差入現金担保・預り現金担保を相殺しています。
2. レベル1、レベル2への(からの)重要な振替はありません。

レベル1の投資は、売却可能有価証券に分類される株式及び債券であり、活発な市場における市場価格で評価しております。レベル2の投資及び現金同等物は、活発ではない市場における同一の資産の市場価格により評価しております。この区分には、主に社債やコマーシャル・ペーパーが含まれています。レベル3の投資は、売買目的有価証券に分類されるヘッジファンド宛の投資（以下、「オルタナティブ投資」）であり、投資先の一株当たり純資産価値により評価しております。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末のオルタナティブ投資の評価額はそれぞれ9,160百万円及び9,355百万円です。投資先の投資戦略は、主に債券アービトラージ、マルチ・ストラテジーなどです。投資の償還の頻度は月次から四半期毎で、主に30日～90日までの通知で償還されます。これらの投資については一部解約手続き中ですが、償還を受けるまでの期間は不明です。

保有するデリバティブは、金利契約、外国為替契約、コモディティ契約のデリバティブです。レベル1のデリバティブは、主にコモディティ契約のデリバティブであり、取引市場価格により評価しております。レベル2のデリバティブは、主に相対取引のコモディティ契約のデリバティブであり、金利、外国為替レートや商品相場価格などの観察可能なインプットを使用し、評価モデルにより評価しております。レベル3のデリバティブは、コモディティ関連の複合デリバティブであり、連結会社の独自の前提を反映した観察不能なインプットを使用して評価しております。

観察不能なインプット（レベル3）を使用して公正価値を測定した資産・負債の調整表は以下のとおりです。

（前第2四半期連結累計期間）

区分	期首残高 (百万円)	損益 (百万円)	その他の 包括損益 (百万円)	購入、売却 及び償還 (百万円)	期末残高 (百万円)	期末で保有す る資産に関連 する未実現の 損益 (百万円)
投資						
売買目的有価証券	14,438	93	△270	△770	13,491	△288
デリバティブ（相殺後）						
コモディティ契約	24	493	—	△508	9	9
合計	14,462	586	△270	△1,278	13,500	△279

（前第2四半期連結会計期間）

区分	期首残高 (百万円)	損益 (百万円)	その他の 包括損益 (百万円)	購入、売却 及び償還 (百万円)	期末残高 (百万円)	期末で保有す る資産に関連 する未実現の 損益 (百万円)
投資						
売買目的有価証券	13,761	△2	△347	79	13,491	△227
デリバティブ（相殺後）						
コモディティ契約	20	△39	—	28	9	△11
合計	13,781	△41	△347	107	13,500	△238

(当第2四半期連結累計期間)

区分	期首残高 (百万円)	損益 (百万円)	その他の 包括損益 (百万円)	購入 (百万円)	売却 (百万円)	償還又は 決済 (百万円)	期末残高 (百万円)	期末で保有す る資産に関連 する未実現の 損益 (百万円)
投資								
売買目的有価証券	9,160	△299	△46	795	△255	—	9,355	△818
デリバティブ（相殺後）								
コモディティ契約	23	537	—	—	—	△550	10	9
合計	9,183	238	△46	795	△255	△550	9,365	△809

(当第2四半期連結会計期間)

区分	期首残高 (百万円)	損益 (百万円)	その他の 包括損益 (百万円)	購入 (百万円)	売却 (百万円)	償還又は 決済 (百万円)	期末残高 (百万円)	期末で保有す る資産に関連 する未実現の 損益 (百万円)
投資								
売買目的有価証券	9,728	△177	△128	—	△68	—	9,355	△256
デリバティブ（相殺後）								
コモディティ契約	15	△49	—	—	—	44	10	△5
合計	9,743	△226	△128	—	△68	44	9,365	△261

(注) レベル3のデリバティブについては、開示上の目的から相殺して表示しております。

投資についての損益は、連結損益計算書の「有価証券損益」に含まれています。また、デリバティブについての損益は、連結損益計算書の「収益」及び「収益に係る原価」に含まれています。

投資についてのその他の包括損益は、連結包括損益計算書の「為替換算調整勘定期中変動額」に含まれています。

非継続的に公正価値で測定される資産・負債

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における非継続的に公正価値で評価された資産・負債の内訳は、以下のとおりです。

(前連結会計年度末)

区分	公正価値 評価額 (百万円)	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	損益 (百万円)
投資	8,593	4,126	61	4,406	△8,301
固定資産	14,741	—	—	14,741	△7,449

(注) 「投資」の公正価値評価額には、関連会社に対する投資の評価額5,426百万円及び原価法投資に対する評価額3,016百万円が含まれています。「投資」の損益には、関連会社に対する投資の減損2,953百万円及び原価法投資に対する減損5,261百万円が含まれています。

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	公正価値 評価額 (百万円)	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	損益 (百万円)
投資	21,398	13,518	43	7,837	△13,245

(注) 「投資」の公正価値評価額には、関連会社に対する投資の評価額19,505百万円及び原価法投資に対する評価額1,810百万円が含まれています。「投資」の損益には、関連会社に対する投資の減損12,315百万円及び原価法投資に対する減損873百万円が含まれています。

投資及び固定資産については、一時的でない価値の下落により非継続的に公正価値で測定しております。レベル1の投資は、活発な市場における市場価格で評価しております。レベル3の投資は、主に投資先の純資産価値や見積キャッシュ・フローなどの観察不能なインプットを使用した割引将来キャッシュ・フロー法により評価しております。レベル3の固定資産は、主に第三者による鑑定評価または割引将来キャッシュ・フロー法などにより評価しております。

8. 金融商品の公正価値

連結会社は、通常業務として様々な金融商品を取り扱っております。通常の営業活動において世界各地で様々な業界に属する多数の顧客と取引を行っており、これら取引に伴う債権や保証の種類も多岐に亘っております。そのため、特定の地域や取引先に対して重要な信用リスクの集中は生じないと経営者は判断しております。また、連結会社は、金融商品の信用リスクを信用リスク管理方針に則り、与信限度の承認、設定及び定期的な信用調査を通じて管理しており、必要に応じて取引先に対し担保等の提供を要求しております。

連結会社は、注記7に基づき公正価値を算定しております。具体的に、個々の金融商品の公正価値の算定にあたり使用した算定方法及び前提条件は以下のとおりです。

短期運用資産以外の短期金融資産及び負債

「現金及び現金同等物」に含まれている取得日から3ヶ月以内に満期が到来する定期預金・コマーシャルペーパー・譲渡性預金、定期預金、営業債権債務及び短期借入金は、比較的短期間で満期が到来するため、これらの公正価値は帳簿価額とほぼ同額です。「現金及び現金同等物」に含まれている取得日からの償還期日が3ヶ月以内の売却可能な有価証券に分類された債券の公正価値の算定方法は、注記7をご参照下さい。

短期運用資産及びその他の投資

「短期運用資産」及び「その他の投資」には、市場性のある有価証券が含まれております。これら有価証券の公正価値の算定方法は、注記7をご参照下さい。「その他の投資」には、非関連会社に対する投資や差入保証金など市場性のない投資も含まれております。これらは公正価値を算定するための情報の入手が困難な多数に及ぶ投資であり、その公正価値を見積ることは実務上困難です。ただし、市場性のない投資のうち、公正価値が下落したと評価され、その下落が一時的ではないと判断された場合は、注記7に記載の方法に基づき公正価値を算定しております。

長期貸付金及び長期営業債権並びに関連会社に対する債権

これらの金融商品の公正価値は、内包するリスクに見合う利率を適用して、将来の見積キャッシュ・フローを割引くことにより算定しております。

長期債務

長期債務の公正価値は、連結会社が新たに同一残存期間の借入を同様の条件の下で行う場合に適用される利率を使用して、将来の見積キャッシュ・フローを割引くことにより算定しております。

デリバティブ

デリバティブの公正価値は、注記7に記載の方法に基づき算定しております。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における、金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下のとおりです。なお、デリバティブの公正価値は、注記6に記載しておりますので、下記の表上には含めておりません。

(前連結会計年度末)

区分	帳簿価額 (百万円)	公正価値 (百万円)
金融資産		
短期運用資産以外の短期金融資産 (貸倒引当金控除後)	4,429,880	4,429,880
短期運用資産及びその他の投資		
公正価値の見積が可能なもの	1,143,600	1,143,600
公正価値の見積が実務上困難なもの	421,256	
長期貸付金及び長期営業債権並びに関連会社に対する債権 (貸倒引当金控除後)	462,150	453,458
金融負債		
短期金融負債	2,952,044	2,952,044
長期債務 (1年内の期限到来分及び「その他の固定負債」 に含まれる長期営業債務を含む)	3,801,767	3,782,313

(当第2四半期連結会計期間末)

区分	帳簿価額 (百万円)	公正価値 (百万円)
金融資産		
短期運用資産以外の短期金融資産 (貸倒引当金控除後)	4,383,596	4,383,596
短期運用資産及びその他の投資		
公正価値の見積が可能なもの	1,042,862	1,042,862
公正価値の見積が実務上困難なもの	389,809	
長期貸付金及び長期営業債権並びに関連会社に対する債権 (貸倒引当金控除後)	458,811	454,364
金融負債		
短期金融負債	2,907,271	2,907,271
長期債務 (1年内の期限到来分及び「その他の固定負債」 に含まれる長期営業債務を含む)	3,885,435	3,885,843

9. 年金及び退職給付債務

連結会社の年金制度及び退職一時金制度に係る期間純年金費用は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
勤務費用	5,576	5,666
利息費用	5,410	5,368
年金資産の期待運用収益	△3,486	△3,644
数理計算上の差異の償却費用	3,668	3,743
過去勤務債務の償却費用	203	173
縮小・清算損失	615	542
期間純年金費用	11,986	11,848

	前第2四半期連結会計期間 (百万円)	当第2四半期連結会計期間 (百万円)
勤務費用	2,800	2,817
利息費用	2,693	2,725
年金資産の期待運用収益	△1,736	△1,868
数理計算上の差異の償却費用	1,824	1,872
過去勤務債務の償却費用	98	83
縮小・清算損失	363	329
期間純年金費用	6,042	5,958

10. 株主資本及び非支配持分

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間における、連結貸借対照表の株主資本、非支配持分及び資本合計の帳簿価額の推移は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	資本合計 (百万円)
期首残高	2,962,521	306,174	3,268,695
当社株主への配当	△34,519	—	△34,519
非支配持分への配当	—	△13,772	△13,772
ストックオプション行使に伴う新株発行	118	—	118
ストックオプション発行に伴う報酬費用	758	—	758
非支配持分との資本取引及びその他	2,353	52	2,405
包括損益			
四半期純利益	267,958	18,306	286,264
その他の包括損益—税効果後			
未実現有価証券評価損益期中変動額	△40,485	△3,930	△44,415
未実現デリバティブ評価損益期中変動額	4,422	21	4,443
確定給付年金調整額期中変動額	3,202	93	3,295
為替換算調整勘定期中変動額	△98,195	△4,784	△102,979
四半期包括損益	136,902	9,706	146,608
自己株式—取得及び処分（純額）	△4	—	△4
期末残高	3,068,129	302,160	3,370,289

当第2四半期連結累計期間

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	資本合計 (百万円)
期首残高	3,284,387	316,603	3,600,990
当社株主への配当	△64,129	—	△64,129
非支配持分への配当	—	△15,823	△15,823
ストックオプション行使に伴う新株発行	280	—	280
ストックオプション発行に伴う報酬費用	792	—	792
転換社債型新株予約権付社債の株式転換による新株発行	905	—	905
非支配持分との資本取引及びその他	3,726	△12,337	△8,611
包括損益			
四半期純利益	245,690	14,717	260,407
その他の包括損益—税効果後			
未実現有価証券評価損益期中変動額	△88,324	△4,238	△92,562
未実現デリバティブ評価損益期中変動額	△41,776	△60	△41,836
確定給付年金調整額期中変動額	3,201	80	3,281
為替換算調整勘定期中変動額	△154,720	△3,810	△158,530
四半期包括損益	△35,929	6,689	△29,240
自己株式—取得及び処分（純額）	303	—	303
期末残高	3,190,335	295,132	3,485,467

(注) 当社は、当第2四半期連結累計期間において、取締役会の決議に基づき、当社が保有する自己株式のうち45百万株を消却しました。この結果、資本剰余金9百万円及びその他の利益剰余金128,601百万円が減少し、自己株式128,610百万円が減少しております。尚、株主資本合計に与える影響はありません。

当社株主に帰属する四半期純利益及び非支配持分との資本取引による変動額は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益	267,958	245,690
子会社持分の追加取得・一部売却による 資本剰余金の増減	2,354	3,726
当社株主に帰属する四半期純利益 及び非支配持分との資本取引による変動額	270,312	249,416

11. 1株当たり四半期純利益

1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の調整計算は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
分子(百万円)		
当社株主に帰属する四半期純利益	267,958	245,690
分母(千株)		
加重平均普通株式数	1,643,607	1,644,938
希薄化効果のある証券の影響		
ストックオプション	3,398	3,604
円建新株予約権付社債	762	268
希薄化効果のある証券の影響考慮後の 加重平均株式数	1,647,767	1,648,810
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益(円)		
基本的	163.03	149.36
潜在株式調整後	162.62	149.01

	前第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
分子(百万円)		
当社株主に帰属する四半期純利益	127,118	130,684
分母(千株)		
加重平均普通株式数	1,643,640	1,645,435
希薄化効果のある証券の影響		
ストックオプション	3,504	3,649
円建新株予約権付社債	762	—
希薄化効果のある証券の影響考慮後の 加重平均株式数	1,647,906	1,649,085
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益(円)		
基本的	77.34	79.42
潜在株式調整後	77.14	79.25

12. セグメント情報

【オペレーティング・セグメント情報】

オペレーティング・セグメントは、企業の最高経営意思決定者が経営資源の配分や業績評価を行うにあたり通常使用しており、財務情報が入手可能な企業の構成単位、として定義されております。

オペレーティング・セグメントは商品及び提供するサービスの性質に基づき決定されております。連結会社の報告セグメントは以下の6グループにより構成されております。

新産業金融事業：	アセットマネジメントや企業へのバイアウト投資、リース、不動産（開発・金融）、物流、保険などの分野において、商社型産業金融ビジネスを展開しています。
エネルギー事業：	石油・ガスの探鉱・開発・生産事業や、LNG 液化プロジェクトへの投資、原油・石油製品・炭素製品・LNG・LPG などの販売取引を行っています。
金属：	薄板、厚板などの鉄鋼製品、石炭、鉄鉱石などの鉄鋼原料、銅、アルミなどの非鉄金属原料・製品の分野において、販売取引、事業開発、投資などを行っています。
機械：	電力・ガス・石油・化学・製鉄などの大型プラントから、船舶、鉄道、自動車、航空宇宙関連機器、鉱山機械、建設機械、産業機械まで、幅広い分野の機械の販売、事業開発、投資などを行っています。
化学品：	原油、天然ガス、鉱物、植物、海洋資源などより生産されるエチレン、メタノール、塩といった工業製品用の原料から、プラスチック、電子材料、食品素材、肥料や医薬品などの製品まで、幅広い化学品の分野において、販売取引、事業開発、投資などを行っています。
生活産業：	食料、衣料、紙・包装材、セメント・建材、医療・介護など、人々の生活に身近な分野で、原料・素材の調達から、消費市場に至るまでの幅広い領域において、商品・サービスの提供、事業開発、投資などを行っています。

各オペレーティング・セグメントにおける会計方針は、注記2 「重要な会計方針の要約」に記載のとおりです。なお、一部項目については、マネジメントアプローチに従い、経営者による内部での意思決定のために調整しております。

経営者は管理上、米国会計基準に基づく当社株主に帰属する当期純利益を主要な指標として、いくつかの要素に基づき各セグメントの業績評価を行っております。また、内部での経営意思決定を目的として、当社独自の経営管理手法を取入れております。

なお、セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じております。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間において、連結会社又はいずれのセグメントにおいても、連結会社の収益の10%を超過する単一の顧客、顧客グループ又は政府機関はありません。

連結会社のオペレーティング・セグメント情報は以下のとおりです。

前第 2 四半期連結累計期間（自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日）

（単位：百万円）

	新産業金融 事業	エネルギー 事業	金属	機械	化学品	生活産業	合計	その他	調整・消去	連結金額
収益	43,976	613,988	464,757	316,820	375,291	722,656	2,537,488	14,798	△467	2,551,819
売上総利益	23,133	25,756	206,126	86,857	40,065	220,705	602,642	8,141	△467	610,316
持分法による投資損益	3,100	28,915	14,536	9,258	7,100	11,328	74,237	4,002	△1,346	76,893
当社株主に帰属する四半期純利益	3,572	55,819	147,356	27,226	13,236	21,437	268,646	△2,366	1,678	267,958
総資産	805,639	1,174,078	3,083,044	1,813,957	646,265	2,132,918	9,655,901	2,063,201	△840,185	10,878,917
関連会社に対する投資	129,947	205,595	222,140	152,016	110,414	332,495	1,152,607	96,890	2,083	1,251,580

売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	69,069	1,878,061	2,201,999	1,859,242	975,643	2,562,167	9,546,181	36,082	△1,140	9,581,123
(2)セグメント間の内部売上高	11,528	9,757	5,064	857	5,622	2,229	35,057	13,686	△48,743	—
合計	80,597	1,887,818	2,207,063	1,860,099	981,265	2,564,396	9,581,238	49,768	△49,883	9,581,123

当第 2 四半期連結累計期間（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日）

（単位：百万円）

	新産業金融 事業	エネルギー 事業	金属	機械	化学品	生活産業	合計	その他	調整・消去	連結金額
収益	48,234	626,337	472,704	286,011	508,105	739,614	2,681,005	19,971	△1,087	2,699,889
売上総利益	22,815	33,569	162,481	88,118	42,849	228,650	578,482	11,303	△1,087	588,698
持分法による投資損益	3,374	36,424	16,033	15,211	10,423	11,624	93,089	3,901	△612	96,378
当社株主に帰属する四半期純利益	4,030	65,386	109,698	29,400	17,911	22,516	248,941	△4,426	1,175	245,690
総資産	808,335	1,334,536	2,893,615	1,765,328	720,080	2,238,389	9,760,283	2,347,034	△811,718	11,295,599
関連会社に対する投資	146,721	247,485	227,275	164,639	109,634	341,511	1,237,265	110,974	△748	1,347,491

売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	79,795	2,204,409	2,227,879	1,593,771	1,130,990	2,714,122	9,950,966	59,814	△1,706	10,009,074
(2)セグメント間の内部売上高	10,123	6,965	1,183	7,563	4,250	4,002	34,086	15,681	△49,767	—
合計	89,918	2,211,374	2,229,062	1,601,334	1,135,240	2,718,124	9,985,052	75,495	△51,473	10,009,074

前第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	新産業金融 事業	エネルギー 事業	金属	機械	化学品	生活産業	合計	その他	調整・消去	連結金額
収益	21,471	314,378	219,593	151,432	181,008	360,066	1,247,948	8,006	△34	1,255,920
売上総利益	11,925	11,506	99,035	43,249	18,489	113,169	297,373	4,146	△34	301,485
持分法による損益	2,014	15,413	12,735	3,997	3,925	6,401	44,485	2,321	△1,048	45,758
当社株主に帰属する四半期純利益	2,582	29,542	65,263	10,846	5,581	12,188	126,002	△383	1,499	127,118

売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	32,772	917,985	1,091,166	1,009,198	468,342	1,302,786	4,822,249	18,000	△764	4,839,485
(2)セグメント間の内部売上高	6,281	4,845	2,274	371	3,704	607	18,082	7,134	△25,216	—
合計	39,053	922,830	1,093,440	1,009,569	472,046	1,303,393	4,840,331	25,134	△25,980	4,839,485

当第2四半期連結会計期間（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）

（単位：百万円）

	新産業金融 事業	エネルギー 事業	金属	機械	化学品	生活産業	合計	その他	調整・消去	連結金額
収益	23,864	267,163	247,137	144,271	254,502	350,315	1,287,252	10,171	△873	1,296,550
売上総利益	11,845	17,576	78,498	45,619	18,765	117,971	290,274	5,944	△873	295,345
持分法による投資損益	2,425	17,011	9,857	9,281	5,061	8,514	52,149	2,336	△260	54,225
当社株主に帰属する四半期純利益	3,397	35,256	51,982	15,222	6,393	11,838	124,088	3,400	3,196	130,684

売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	40,932	1,104,652	1,152,292	893,245	562,863	1,382,858	5,136,842	27,720	△899	5,163,663
(2)セグメント間の内部売上高	5,066	3,611	543	436	2,294	1,839	13,789	8,333	△22,122	—
合計	45,998	1,108,263	1,152,835	893,681	565,157	1,384,697	5,150,631	36,053	△23,021	5,163,663

(注) 1. 「その他」は、主に当社及び関係会社に対するサービス及び業務支援を行うコーポレートスタッフ部門などを表しております。また当欄には、各オペレーティング・セグメントに配賦できない、財務・人事関連の営業活動による収益及び費用も含まれております。総資産のうち「その他」に含めた全社資産は、主に財務・投資活動に係る現金・預金及び有価証券により構成されております。

2. 「調整・消去」には、各オペレーティング・セグメントに配賦できない収益及び費用やセグメント間の内部取引消去が含まれております。

13. 変動持分事業体の連結

連結会社は、変動持分事業体に対する関与について検討し、変動持分事業体の変動持分を有しているかどうかを判定します。連結会社が変動持分事業体に対する変動持分を有する場合であって、連結会社が変動持分事業体の経済実績に最も重要な影響を与える活動に対して指示する権限を有し、かつ、変動持分事業体にとって潜在的に重要となる可能性のある変動持分事業体の損失を負担する義務又は利益を享受する権利を有する場合には、連結会社は、当該変動持分事業体の主たる受益者に該当するものと判定しております。

なお、会計基準に定められている要件を満たす一部の変動持分事業体については、連結会社が当該変動持分事業体から生じる期待損失の過半を負担する場合、連結会社は当該変動持分事業体の主たる受益者に該当するものと判定しております。また、期待損失の過半を負担する当事者がいない場合でも、連結会社が期待残余利益の過半を享受するときには、連結会社は当該変動持分事業体の主たる受益者に該当するものと判定しております。

連結会社が主たる受益者に該当することから連結した変動持分事業体に関する情報、及び連結会社が主たる受益者に該当しないことから連結していない変動持分事業体に関する情報は以下のとおりです。

連結した変動持分事業体

連結会社は、変動持分事業体を通じて、主として不動産開発事業に従事しております。不動産開発により付加価値をつけた上で将来的に売却することを目的として、変動持分事業体経由で不動産あるいは不動産に係る信託受益権を取得しております。これらの変動持分事業体は、主として借入により資金調達を行っております。

これらの不動産関連取引において変動持分事業体を使用することにより、第三者によるノン・リコースローンを組成し、当該不動産取引にかかる連結会社のリスクを限定しております。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末におけるこれらの変動持分事業体の資産合計、連結貸借対照表における資産合計及び負債合計は以下のとおりです。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
変動持分事業体の資産合計	207,525	192,276
連結貸借対照表における資産合計	207,147	191,904
連結貸借対照表における負債合計	79,245	76,241

連結貸借対照表における資産のうち主なものは、長期借入金の弁済に供される有形固定資産であり、負債のうち主なものは、当該変動持分事業体を除く連結会社の資産に対し遡及権を有しない長期借入金です。

また、これらの変動持分事業体の資産の一部は、当該変動持分事業体の長期借入金の担保として差入れており、前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における当該資産はそれぞれ106,386百万円及び105,595百万円であり、連結貸借対照表上、大部分は有形固定資産に計上しております。

なお、連結会社が前連結会計年度末において連結していた変動持分事業体の幾つかは、当該変動持分事業体の連結会社持分解約又は清算により連結対象外となりました。当第2四半期連結会計期間末における連結財務諸表に対する重要な影響はありません。

連結していない変動持分事業体

連結会社が主たる受益者ではなく、連結をしていない変動持分事業体についても、投資、保証、又は貸付という形態により変動持分を保有しているものがあります。これらの変動持分事業体は、主として借入により資金調達を行っております。また、これらの変動持分事業体は様々な活動を行っており、代表的なものとして、インフラ事業におけるプロジェクト・ファイナンス及び不動産関連事業を遂行するための事業体があります。

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末におけるこれらの変動持分事業体の資産合計、連結貸借対照表における変動持分に係る資産合計及び負債合計、並びに連結会社がこれらの変動持分事業体への関与から被る可能性のある想定最大損失額は以下のとおりです。なお、これらの情報については、入手しうる直近の財務情報を用いております。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第2四半期連結会計期間末 (百万円)
変動持分事業体の資産合計	768,040	856,383
連結貸借対照表における変動持分に係る資産合計	93,533	94,899
連結貸借対照表における変動持分に係る負債合計	7,291	6,628
想定最大損失額	116,094	134,137

連結貸借対照表における変動持分に係る資産合計のうち、主なものは貸付金であり、負債合計のうち、主なものは取引前受金です。なお、想定最大損失額には、当該変動持分事業体に対する信用保証等が含まれているため、連結貸借対照表における変動持分に係る資産合計との間に差異が生じております。なお、想定最大損失額は、変動持分事業体への関与から通常見込まれる損失見込額とは関係なく、将来見込まれる損失額を大幅に上回るものです。

14. 偶発債務

保証

連結会社は、保証の提供によって、債務を引き受けることとなる様々な契約の当事者となっています。そうした保証は関連会社や顧客や取引先に対して提供するものです。

信用保証

連結会社は、主に信用状 (Stand by letter of credit) や取引履行保証の形態により、前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、顧客や取引先に対して、それぞれ245,958百万円及び262,982百万円、関連会社に対して、それぞれ75,822百万円及び89,178百万円の信用保証を行っております。これらの信用保証は、顧客や取引先、及び関連会社による第三者との取引又は第三者からの資金調達を可能にすることを目的としております。多くの保証契約は10年以内に満期を迎えるものであり、残りの信用保証も平成48年までに満期となります。仮に被保証者である顧客や取引先又は関連会社が、取引契約又は借入契約に基づく義務の履行を怠った場合には、連結会社が被保証者に代わって債務を履行する必要があります。連結会社では、保証先の財務諸表等の情報に基づき社内格付を設定し、その社内格付に基づき、保証先ごとの保証限度額の設定や必要な担保・保証などの取り付けを行うことにより信用保証リスクの管理を行っております。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における、第三者から取り付けた保証や担保資産などの求償可能額は、それぞれ12,249百万円及び10,897百万円です。また、前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における上記の信用保証に係る負債計上額は、それぞれ2,546百万円及び1,519百万円です。当第2四半期連結会計期間末において、保証実行により重大な損失が発生する可能性の高い信用保証はありません。

連結会社は、海外プロジェクトにおける総額約67億米ドルの銀行借入に関連し、当該海外プロジェクトの資産の一部に対する担保権設定が完了していないことに起因して銀行に損害が生じた場合には、連結会社が持分割合 (10%) に応じて損害額を補償する契約を、銀行との間で締結しております。

同補償契約については、その性質上、当該契約に基づく連結会社の最大負担額を予想することはできないため、上記の信用保証金額には含めておりません。また、当該契約による連結会社の補償義務については、発生可能性が低くかつ見積不能であるため、負債は計上しておりません。

損失補償

連結会社は、事業売却や譲渡の過程において、環境や税務などに関する偶発損失を補償する契約を締結することがあります。補償の性質上、これらの契約に基づく連結会社の最大負担額を予想することはできません。これらの契約による連結会社の補償義務については、一部既に請求行為を受けているものを除いて、発生可能性が低くかつ見積不能であるため、負債は計上しておりません。

製品保証引当金

一部の子会社は、製品販売後の無償修理費用の支出に備えるため、製品保証費用の見積もりに基づいて製品保証引当金を計上しております。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間における製品保証引当金の推移は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (百万円)
期首残高	3,184	2,600
当期増加	547	379
当期使用	△386	△238
その他(注)	△190	△403
期末残高	3,155	2,338

(注) その他には、主に連結除外及び為替変動の影響が含まれております。

訴訟

連結会社にはいくつかの係争中の事件がありますが、経営者は、これらの事件が最終的に解決され、仮に連結会社が債務を負うことになったとしても、連結会社の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすことはないと考えております。

15. 後発事象

連結会社は、後発事象を平成23年11月14日まで評価しております。

中間配当

平成23年11月1日開催の取締役会において、平成23年9月30日現在の株主に対し、1株当たり32円、総額52,672百万円の現金配当を行うことが決議されました。

株式公開買付け及び子会社の異動

連結会社は、平成23年10月、公開買付けにより中央化学株式会社（食品包装容器の製造販売事業、平成23年6月30日現在の連結総資産額48,537百万円、連結純資産額13,372百万円。以下、「当該会社」）の発行済株式総数の44.29%（平成23年10月19日現在。以下同様）を3,597百万円で追加取得し、58.02%を保有する子会社としました。連結会社は、当該会社の再建支援を強化・加速し、継続的企業価値の向上を目指す方針です。

チリ国銅鉱山・製錬所運営会社株式の取得

連結会社は、平成23年11月10日アングロ・アメリカン社（Anglo American plc、本社：英国ロンドン）から、同社が100%保有するチリ国銅資産権益保有会社アングロ・アメリカン・スール社（Anglo American Sur S.A.、本社：チリ国サンチャゴ、以下「アングロスール社」）の株式24.5%を53.9億米ドル（約4,200億円）で取得しました。今回の株式取得により、連結会社はアングロスール社の銅資産権益の24.5%を保有することとなり、現在の銅の年間持分生産量14万トンが、平成24年には25万トンに引き上げられる見込みです。連結会社は、優良資源事業投資の拡大と持続的に成長可能な資源ポートフォリオの拡充を重点分野と位置付けており、今回の株式取得を通じて、事業の継続的成長を図って参ります。

2 【その他】

平成23年11月1日開催の取締役会において、平成23年度の中間配当に関し、次のとおり決議されました。

- ① 1株当たり中間配当金 : 32円
- ② 中間配当金の総額 : 52,672百万円
- ③ 効力発生日及び支払開始日 : 平成23年12月1日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

三菱商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	荻 茂生	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤井 美知雄	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩下 稲子	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山田 政之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱商事株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表の作成方法等について」参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表の作成方法等について」参照）に準拠して、三菱商事株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【会社名】	三菱商事株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長 小林 健
【最高財務責任者の役職氏名】	代表取締役 副社長執行役員 上田 良一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目3番1号
【縦覧に供する場所】	中部支社 (名古屋市中村区名駅一丁目1番4号) 関西支社 (大阪市北区梅田二丁目2番22号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 小林健及び最高財務責任者 上田良一は、当社の平成23年度第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。